

Salesforceアダプタの使い方

マジックソフトウェア・ジャパン株式会社

目次: Salesforceアダプタの使い方

■ 第1章 事前準備

- 1.1 レジストリの設定
- 1.2 AppExchangeパッケージインストール ※
- 1.3 プロキシを使用している場合の設定
- 1.4 Salesforceリソースの設定
- 1.5 Salesforceサービスの設定

■ 第2章 トリガの使い方

- 2.1 トリガ

■ 第3章 基本APIの使い方

- 3.1 クエリ
- 3.2 作成
- 3.3 更新
- 3.4 アップサート
- 3.5 削除

■ 第4章 一括(Bulk)APIの使い方

- 4.1 一括(Bulk)クエリ
- 4.2 一括(Bulk)作成
- 4.3 一括(Bulk)更新
- 4.4 一括(Bulk)アップサート
- 4.5 一括(Bulk)削除
- 4.6 ジョブの実行状況の確認

■ 第5章 応用

- 5.1 マスタ参照項目の取得

※ xpi 4.9.2以降では、AppExchangeパッケージのインストールは不要となりました。



OUTPERFORM THE FUTURE™

第1章 事前準備



OUTPERFORM THE FUTURE™

All Rights Reserved, Copyright(C) Magic Software Japan K.K. 2020

1.1 レジストリの設定



OUTPERFORM THE FUTURE™

1.1 レジストリの設定

【TLS 1.2サポート】

- ・ .NETフレームワークが、TLS1.2をサポートするようにレジストリを設定します。

【対象レジストリキー】

- ・ 以下の2つのレジストリキーで、SchUseStrongCrypto DWORDの値を1に設定します。

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥.NETFramework¥v4.0.30319

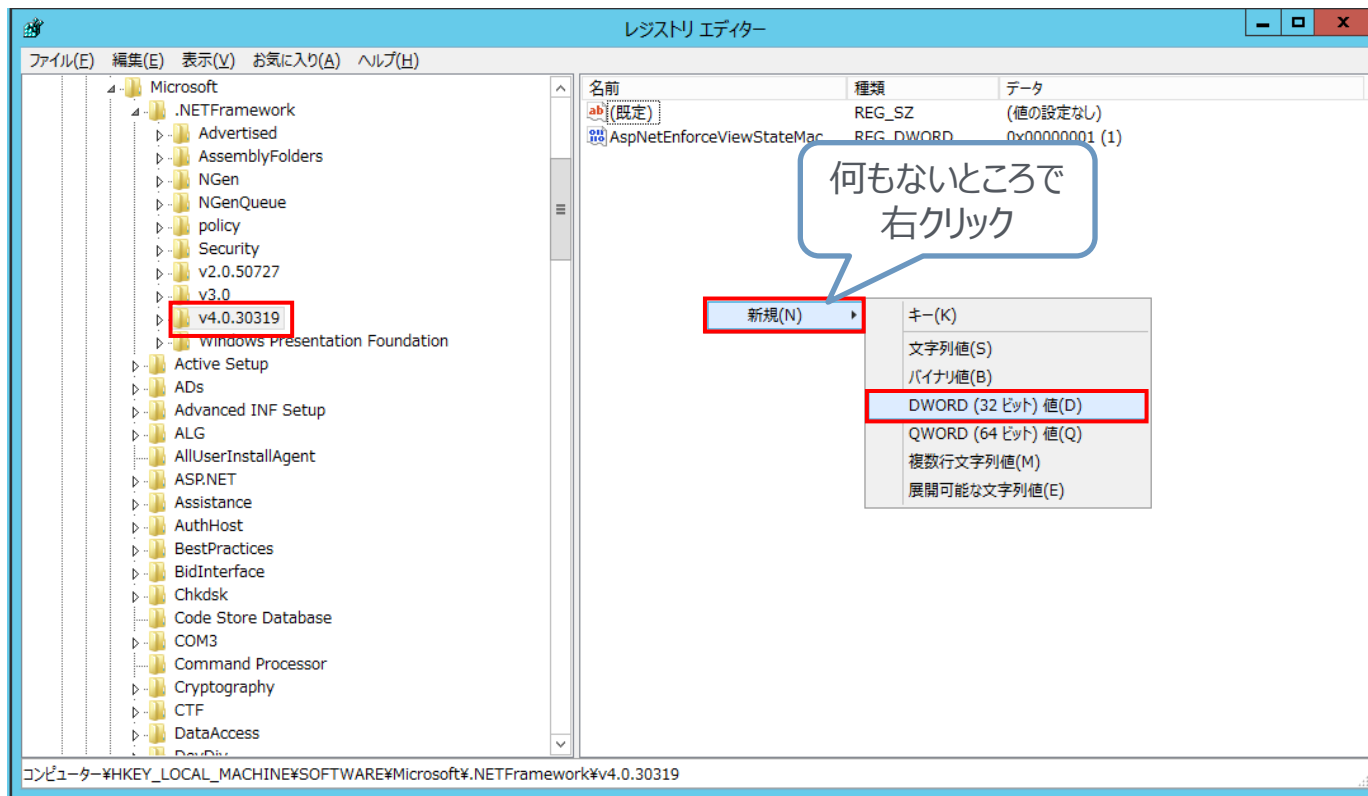
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Microsoft¥.NETFramework¥v4.0.30319



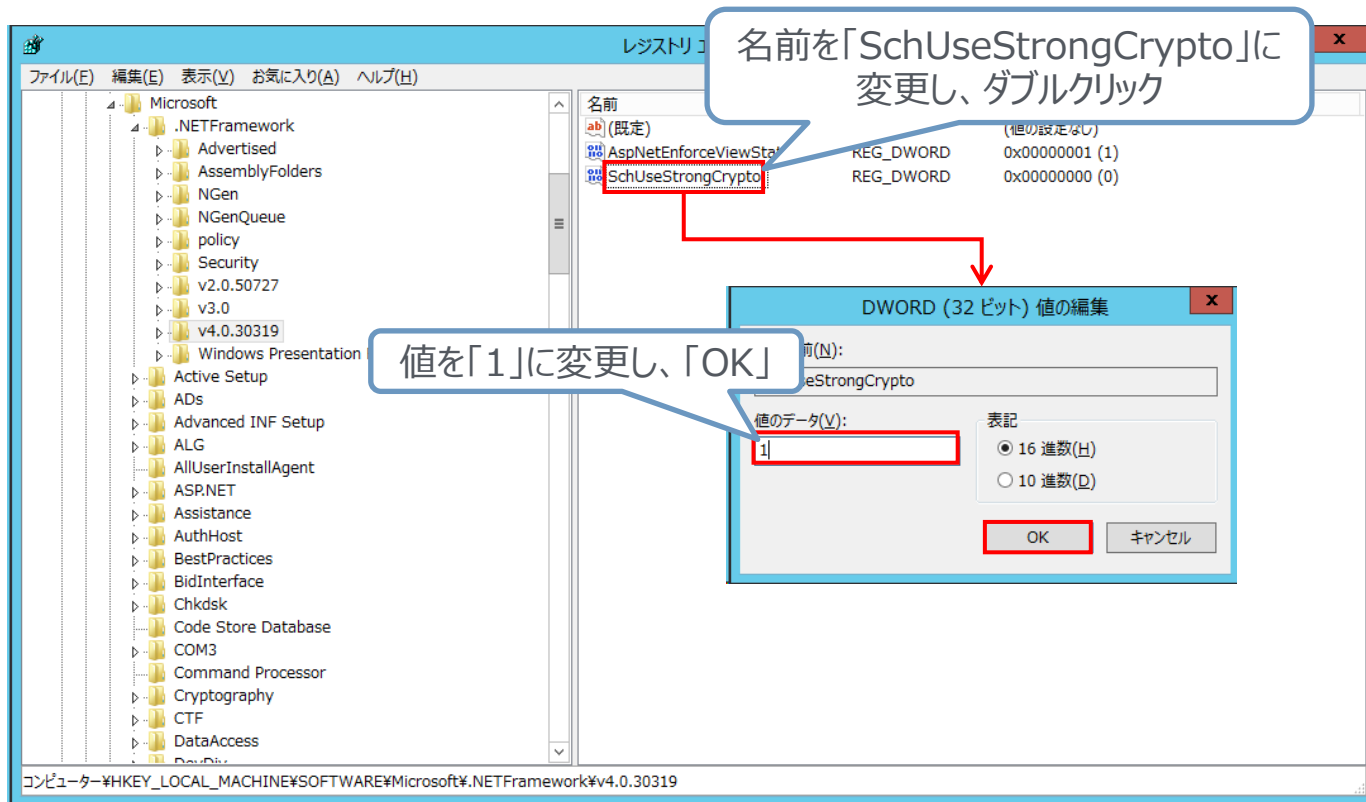
OUTPERFORM THE FUTURE™

1.1 レジストリの設定

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥.NETFramework¥v4.0.30319

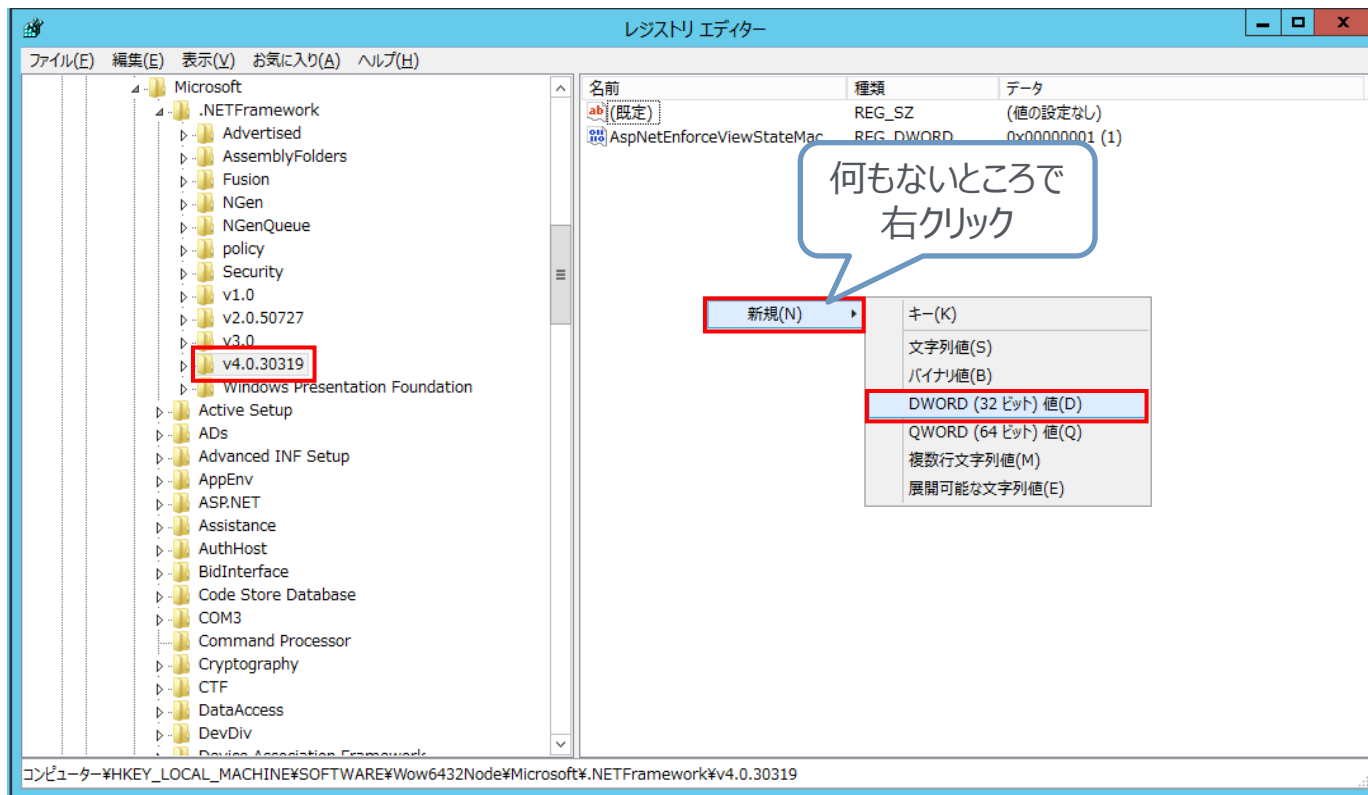


1.1 レジストリの設定



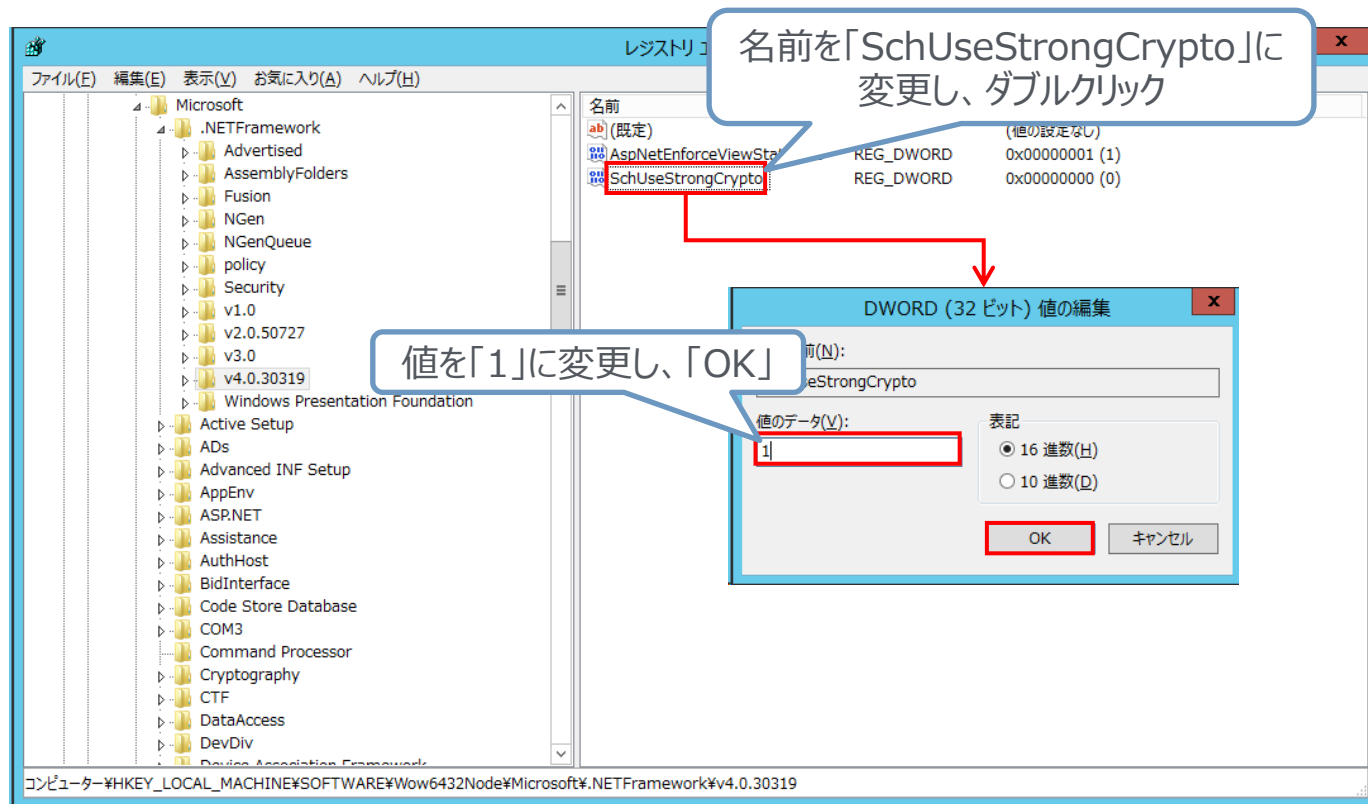
1.1 レジストリの設定

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Microsoft¥.NETFramework¥v4.0.30319



OUTPERFORM THE FUTURE™

1.1 レジストリの設定



1.1 レジストリの設定

【Magic xpi スタジオが使用するIEのバージョン指定】

- ・ Magic xpi スタジオが、IE11を使用するようにレジストリを設定します。

【対象レジストリキー】

- ・ 以下のレジストリキーで、MgxpiStudio.exe DWORDの値を11000(10進数)に設定します。

¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥WOW6432Node¥Microsoft¥Internet Explorer
¥Main¥FeatureControl¥FEATURE_BROWSER_EMULATION

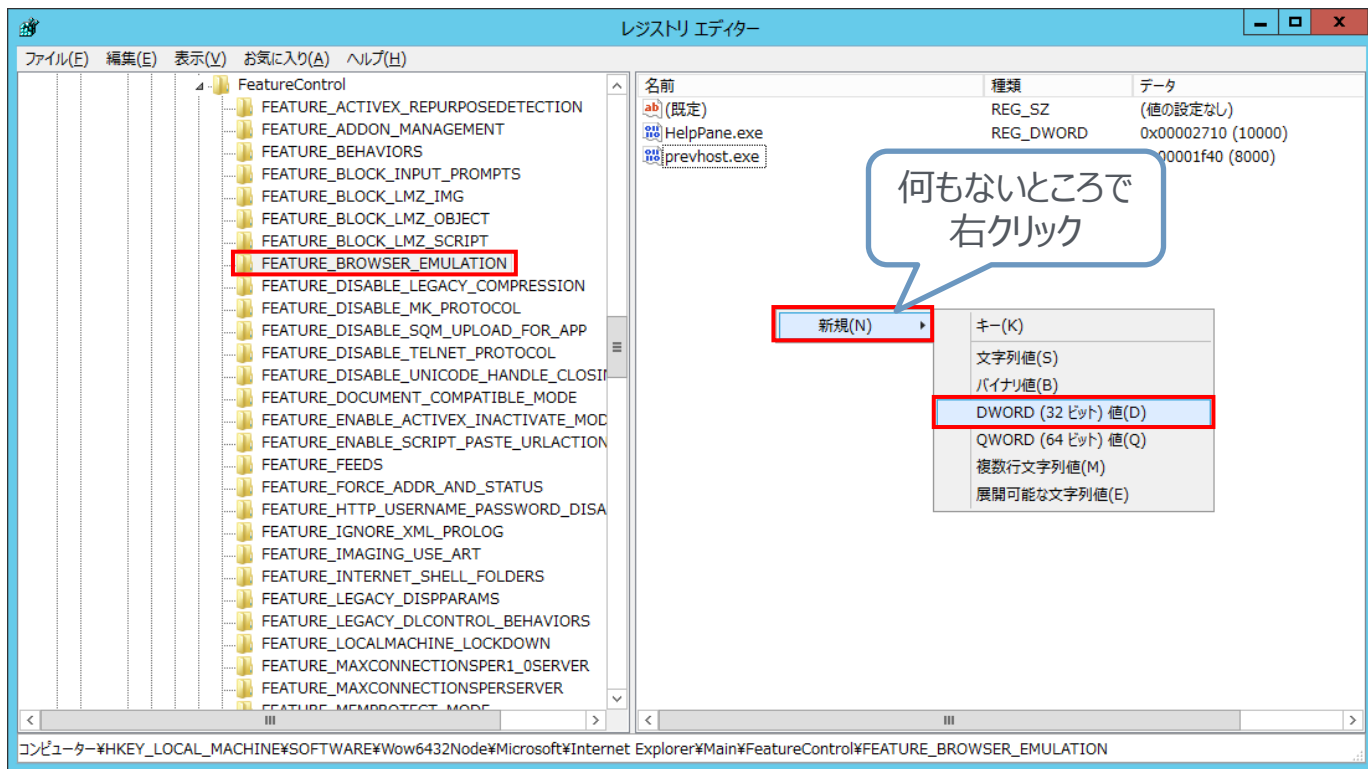


OUTPERFORM THE FUTURE™

1.1 レジストリの設定

¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥WOW6432Node¥Microsoft¥Internet Explorer

¥Main¥FeatureControl¥FEATURE_BROWSER_EMULATION



1.1 レジストリの設定

名前を「Mgxpistudio.exe」に変更し、ダブルクリック

名前	データ型	値
(既定)	REG_SZ	(値の設定なし)
HelpPane.exe	REG_DWORD	0x00002710 (10000)
prevhost.exe	REG_DWORD	0x00001f40 (8000)
Mgxpistudio.exe	REG_DWORD	0x00002af8 (11000)

DWORD (32 ビット) 値の編集

値の名前(N):
Mgxpistudio.exe

値のデータ(V):
11000

表記
☐ 16 進数(H)
☒ 10 進数(D)

OK キャンセル

値を「11000」(10進数)に変更し、「OK」

コンピューター\HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Microsoft\Internet Explorer\Main\FeatureControl\FEATURE_BROWSER_EMULATION

1.2

AppExchange パッケージインストール



※ xpi 4.9.2以降では、AppExchangeパッケージのインストールは不要となりました。

OUTPERFORM THE FUTURE™

1.2 AppExchangeパッケージインストール

- ・ ご利用のSalesforce環境に「Magic xpi Integration Platform for Salesforce」パッケージをインストールします。

※ 本資料作成時、Internet Explorerでは検索ボックスが効かない等、うまく動作しなかったので、Google Chromeを使用しました。

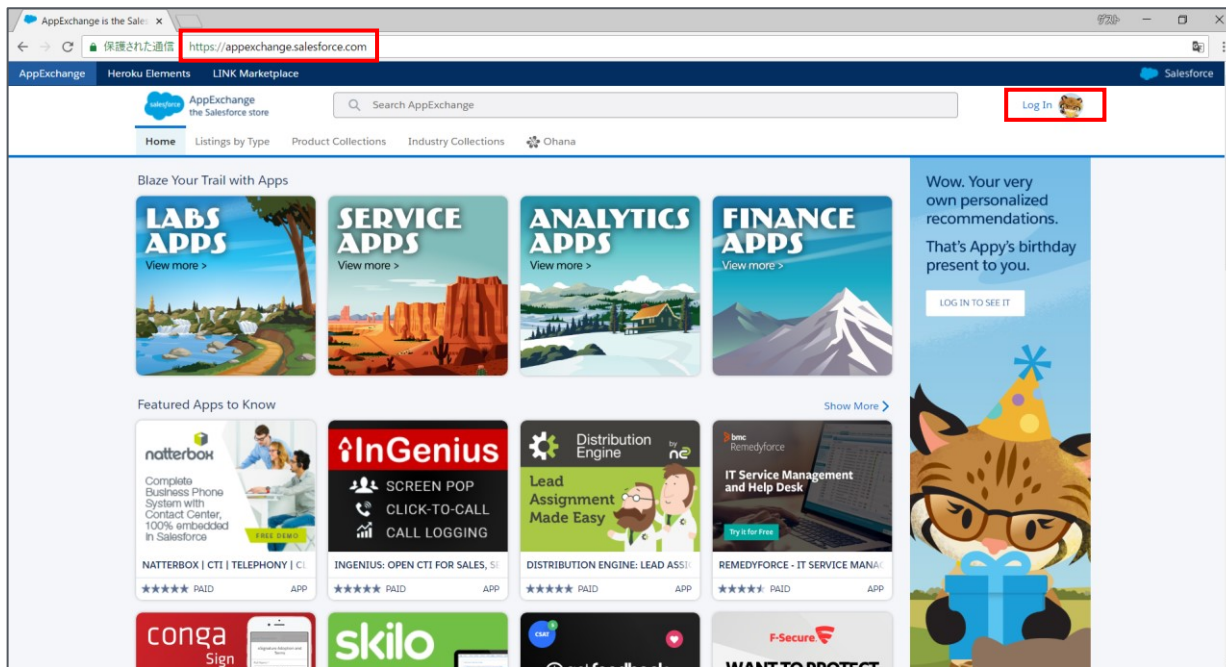
※ xpi 4.9.2以降では、AppExchangeパッケージのインストールは不要となりました。



OUTPERFORM THE FUTURE™

1.2 AppExchange/パッケージインストール

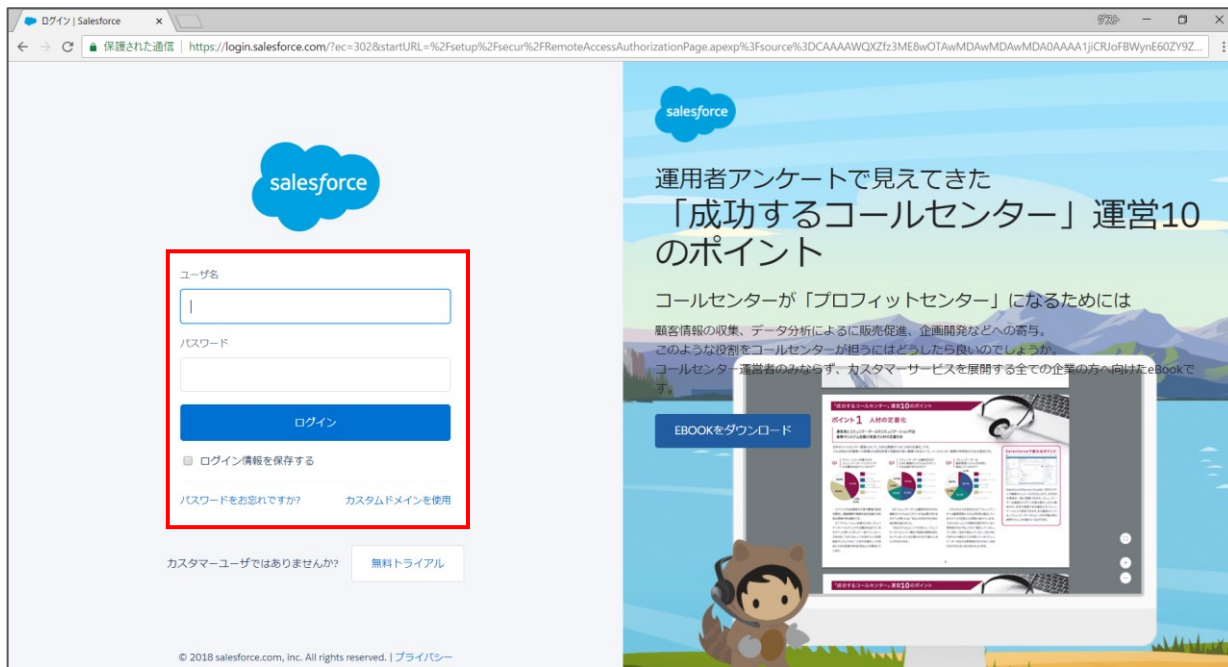
- ブラウザで「https://appexchange.salesforce.com」にアクセスし、「Log In」をクリックします。



OUTPERFORM THE FUTURE™

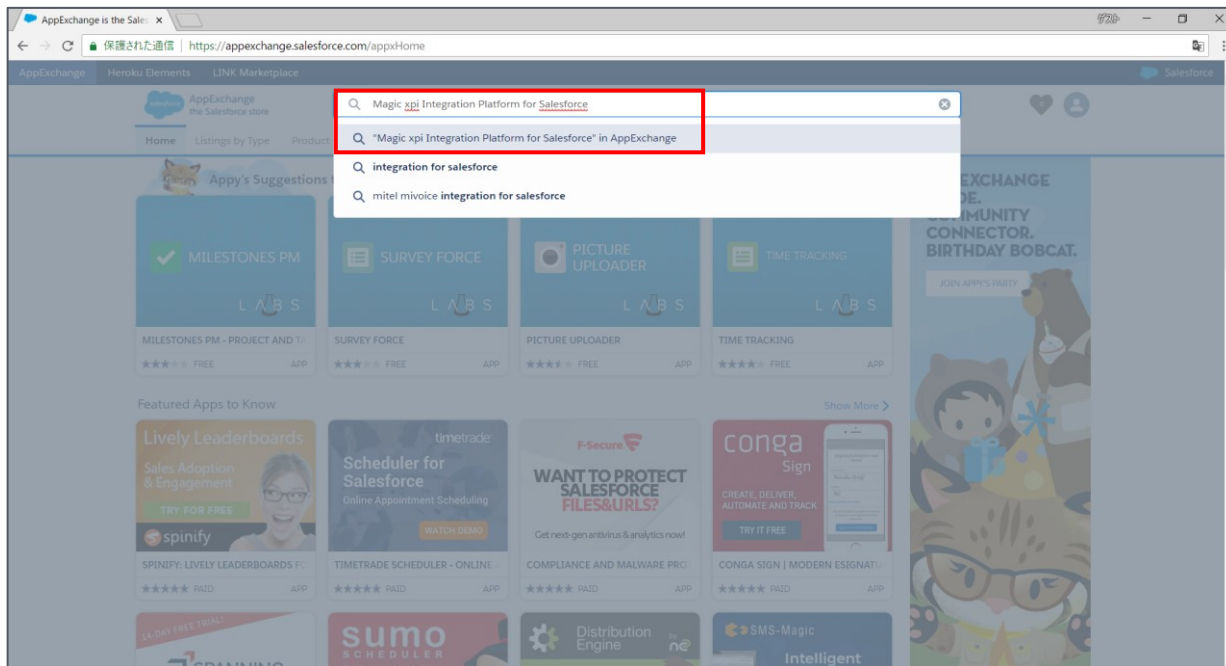
1.2 AppExchange/パッケージインストール

- ユーザ名とパスワードを入力し、「ログイン」ボタンを押します。



1.2 AppExchange/パッケージインストール

- 検索ボックスに「Magic xpi Integration Platform for Salesforce」と入力し、
「“Magic xpi Integration Platform for Salesforce” in AppExchange」をクリックします。



1.2 AppExchange/パッケージインストール

- 「Magic xpi Integration Platform for Salesforce」をクリックします。

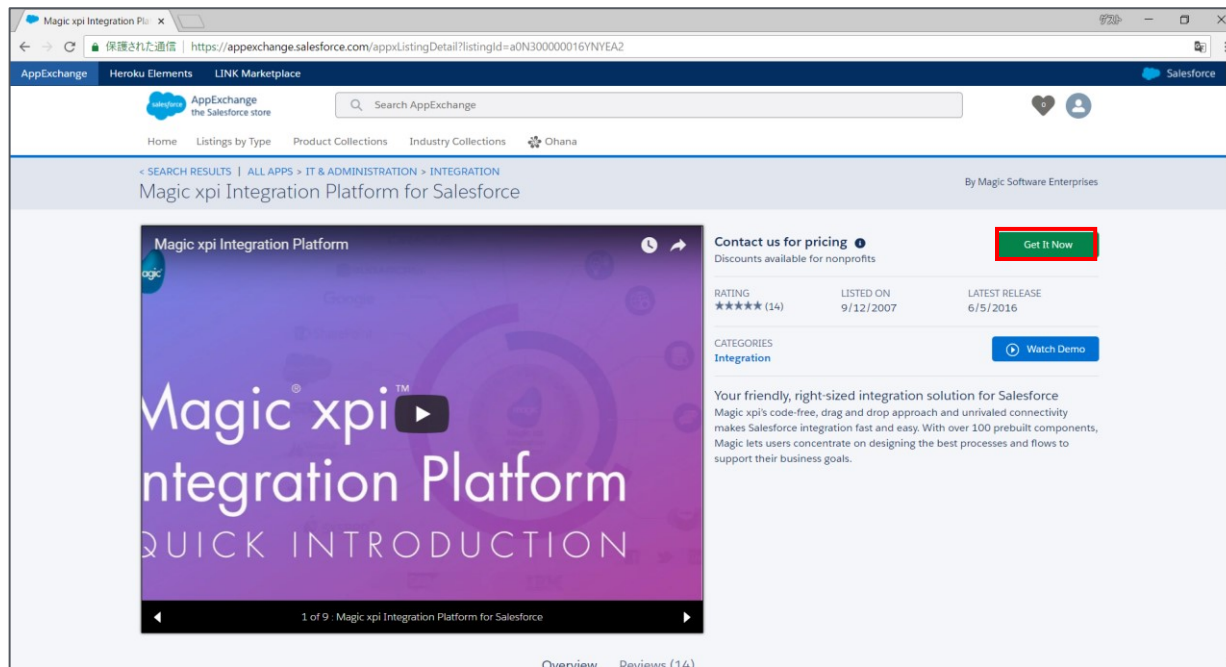
The screenshot shows the Salesforce AppExchange search results page. The search query is 'Magic xpi Integration Platform for Salesforce'. The results are categorized into 'Apps' (5 Results) and 'Content' (1 Result). The 'Apps' section is expanded, showing a list of applications. The application 'Magic xpi Integration Platform for Salesforce' is highlighted with a red box. Below it, other applications like 'Workato: Advanced Integrations for Salesforce', 'Email Integration for Outlook, Office365, Gmail - by Thrive', 'Magic Mover for Notes And Attachments to Lightning Experience', and 'Workato: Advanced JIRA Integrations' are listed. The 'Content' section shows one result: '120+ Well Wishes & Favorite Apps on Appy's 1st Birthday'.

LISTING	LATEST RELEASE	RATING	PRICE
Magic xpi Integration Platform for Salesforce	6/5/2016	★★★★★ (14)	Paid
Workato: Advanced Integrations for Salesforce*	9/16/2014	★★★★★ (48)	Paid
Email Integration for Outlook, Office365, Gmail - by Thrive	10/6/2017	★★★★★ (3)	Free
Magic Mover for Notes And Attachments to Lightning Experience	6/15/2018	★★★★★ (89)	Free
Workato: Advanced JIRA Integrations	12/14/2016	★★★★★ (1)	Free

LISTING	ARTICLE TYPE	AUTHOR
120+ Well Wishes & Favorite Apps on Appy's 1st Birthday	Article	Nelson Amanda

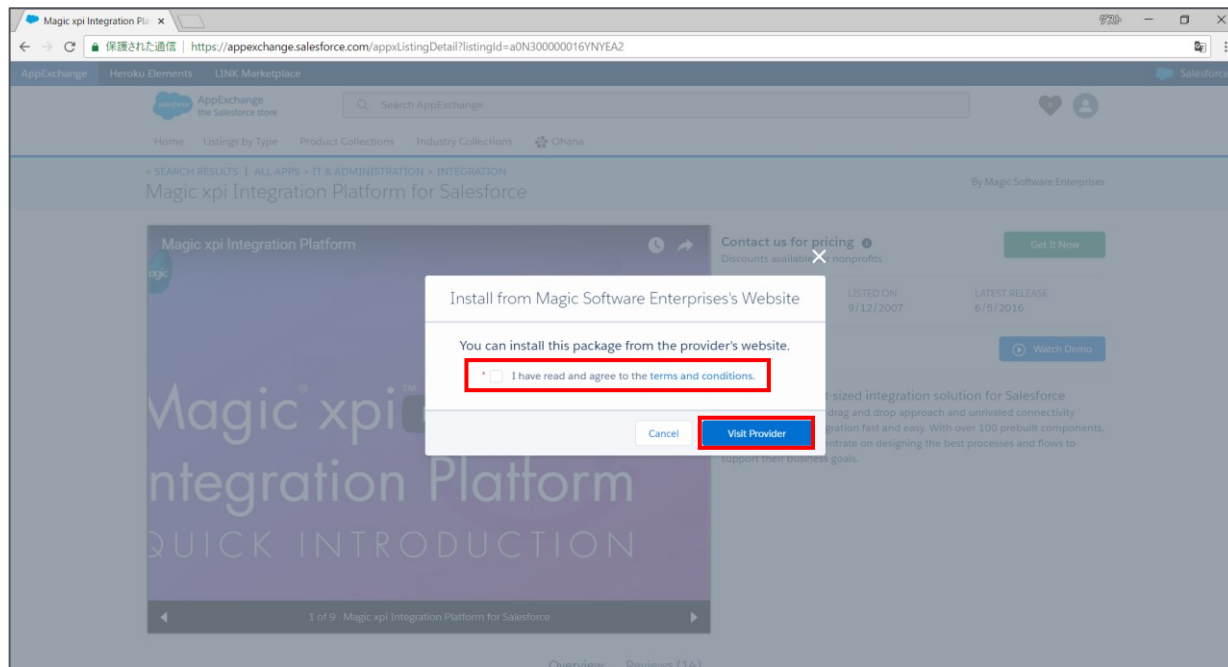
1.2 AppExchange/パッケージインストール

- 「Get It Now」ボタンを押します。



1.2 AppExchange/パッケージインストール

- 利用規約に同意し「Visit Provider」ボタンを押します。



1.2 AppExchange/パッケージインストール

- 必要事項を入力し、画面下部の「Submit!」ボタンを押します。

Magic xpi for AppExchange

info.magicsoftware.com/appexchange-magic-software.html

Please fill the form to install the Magic xpi Salesforce App now or contact us for more information

First Name

Last Name

Email Address

Phone Number

Company Name

Country

Leave a comment

Are you already a Magic xpi user?

This website uses cookies to ensure you get the best experience on our website and assist with our analytics and marketing

項目	入力値の例
First Name	Taro
Last Name	Yamada
Email Address	taro_yamada@magicsoftware.com
Phone Number	81-3-5937-3300
Company Name	Magic Software Japan K.K.
Country	Japan
Leave a comment	
Are you already a Magic xpi user?	Yes - Install in Production



OUTPERFORM THE FUTURE™

1.2 AppExchange/パッケージインストール

- 下記の画面が表示された場合は、ブラウザのアドレスバーにインストール画面(P.23)のURLを直接入力してください。
- ログイン画面が表示されますので、ログイン情報を入力します。

※ 一度目のログインは失敗します。再度ログイン情報を入力してください。

アドレスバーに下記URLを入力しEnter
<https://ap5.lightning.force.com/packagingSetupUI/ipLanding.app?apvId=04t24000000NcGG>

2回、ログインを試行してください



OUTPERFORM THE FUTURE™

1.2 AppExchange/パッケージインストール

- 「すべてのユーザのインストール」を選択し、「インストール」ボタンを押します。



1.2 AppExchange/パッケージインストール

- インストール進行中は、下記のような画面になります。



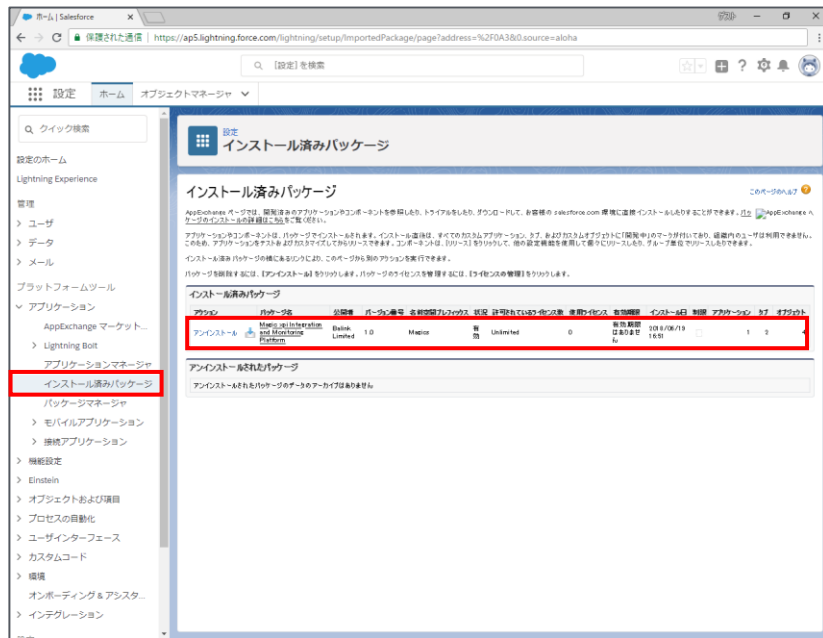
1.2 AppExchange/パッケージインストール

- インストールが完了したら、「完了」ボタンを押します。

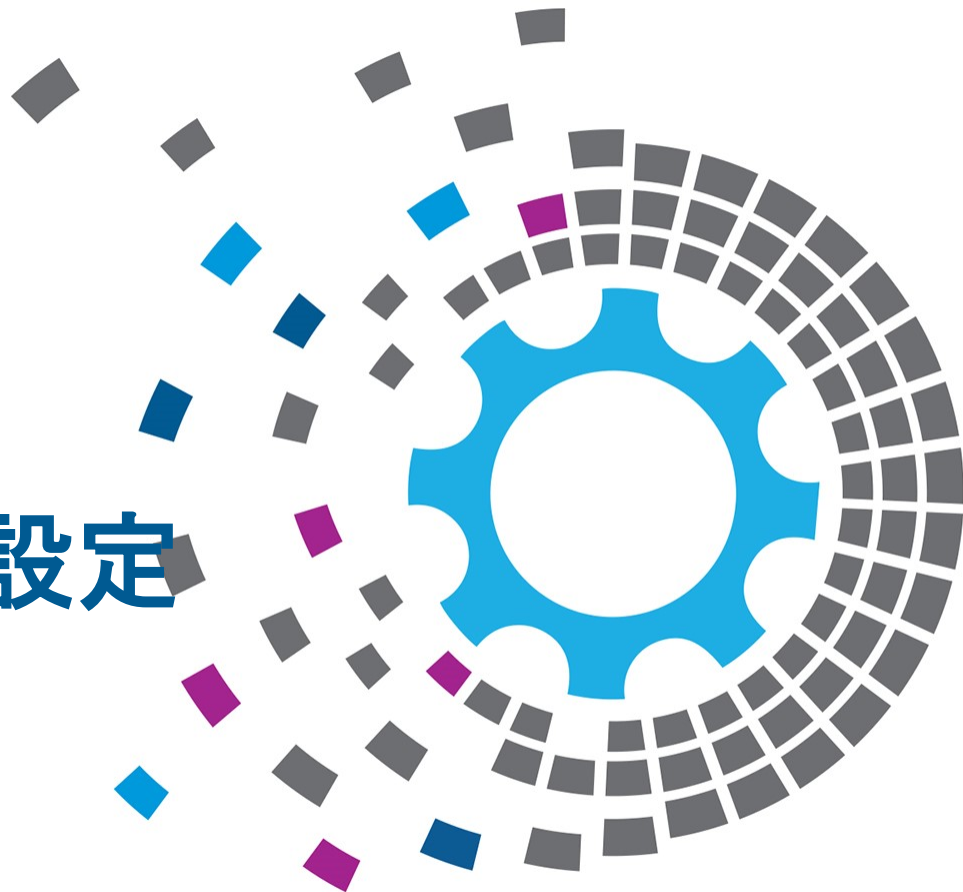


1.2 AppExchange/パッケージインストール

- ・ 設定 > アプリケーション > Lightning Bolt > インストール済みパッケージに、インストールした「Magic xpi Integration and Monitoring Platform」パッケージが表示されます。



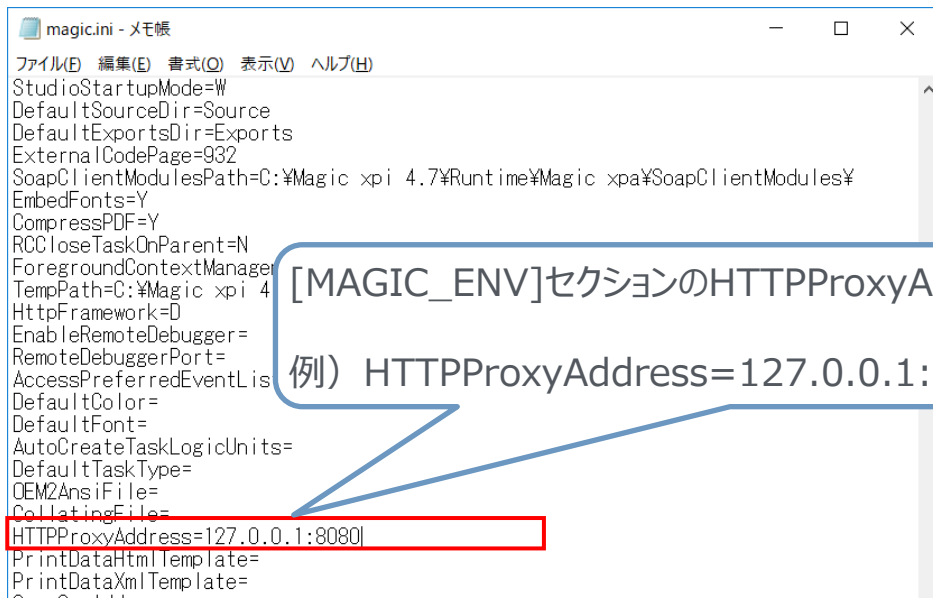
1.3 プロキシを使用 している場合の設定



OUTPERFORM THE FUTURE™

1.3 プロキシを使用している場合の設定

- ・ プロキシサーバを経由してインターネット接続している場合、プロキシサーバのIPアドレスとポート番号をmagic.iniファイルに記載する必要があります。



```
magic.ini - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
StudioStartupMode=W
DefaultSourceDir=Source
DefaultExportsDir=Exports
ExternalCodePage=932
SoapClientModulesPath=C:\¥Magic xpi 4.7¥Runtime¥Magic xpa¥SoapClientModules¥
EmbedFonts=Y
CompressPDF=Y
RCCloseTaskOnParent=N
ForegroundContextManager
TempPath=C:\¥Magic xpi 4
HttpFramework=D
EnableRemoteDebugger=
RemoteDebuggerPort=
AccessPreferredEventLis
DefaultColor=
DefaultFont=
AutoCreateTaskLogicUnits=
DefaultTaskType=
OEM2AnsiFile=
CollatingFile=
HTTPProxyAddress=127.0.0.1:8080
PrintDataHtmlTemplate=
PrintDataXmlTemplate=
```

[MAGIC_ENV]セクションのHTTPProxyAddressの値を設定します。

例) HTTPProxyAddress=127.0.0.1:8080

magic.iniファイルは下記フォルダにあります。

<xpiインストールフォルダ>¥Runtime¥Magic xpa¥magic.ini

1.4

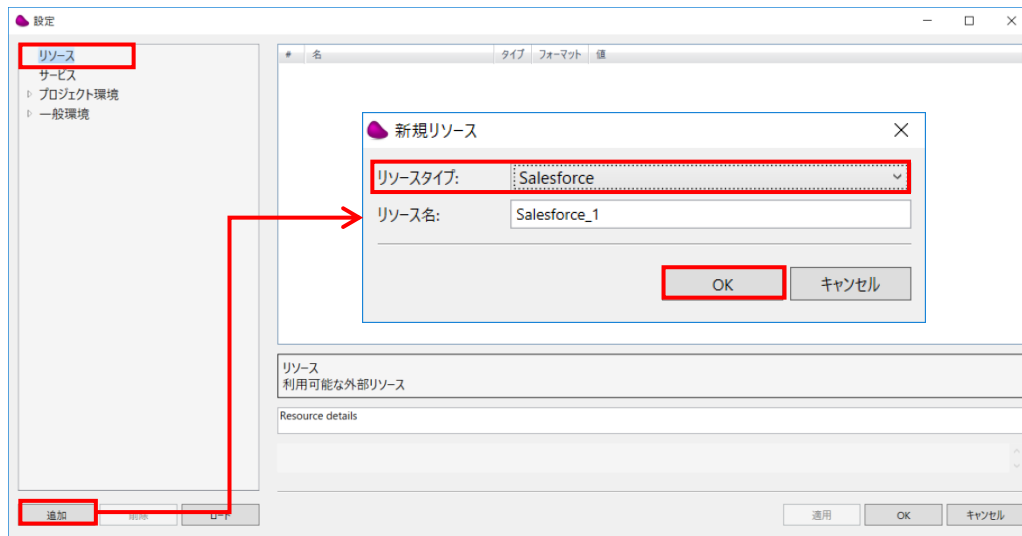
Salesforce リソースの設定



OUTPERFORM THE FUTURE™

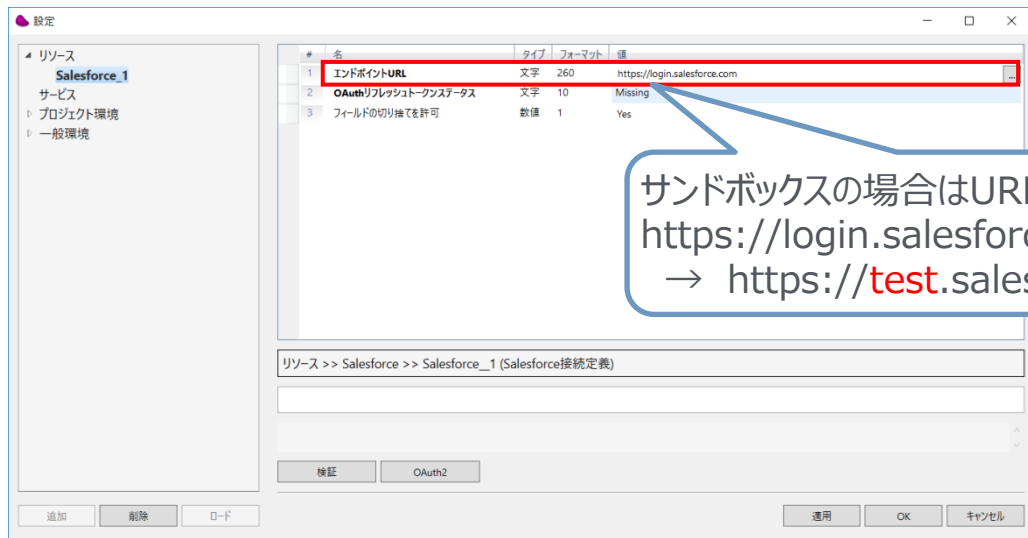
1.4 Salesforceリソースの設定

- ・ xpiスタジオのメニュー > プロジェクト > 設定より設定画面を開きます。
- ・ 左ペインで「リソース」を選択した状態で「追加」ボタンを押し、リソースタイプ「Salesforce」のリソースを作成します。



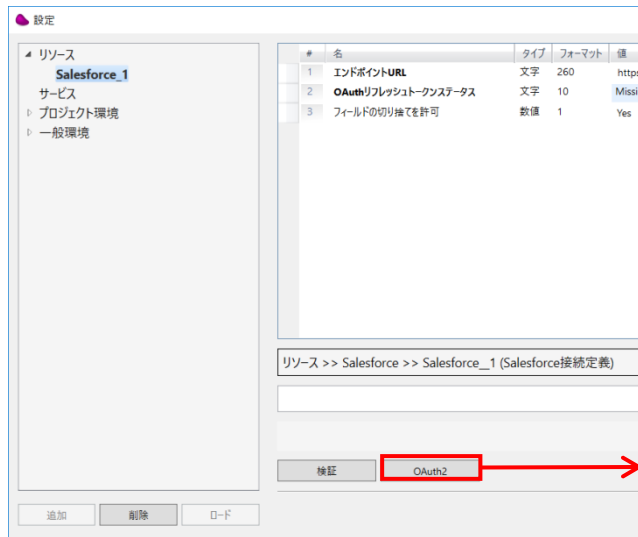
1.4 Salesforceリソースの設定

- エンドポイントURLを確認します。
- サンドボックス環境へ接続する場合はURLを変更します。

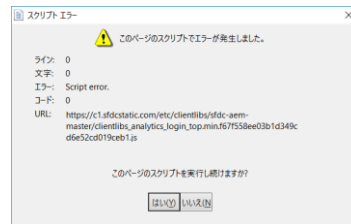


1.4 Salesforceリソースの設定

- 「OAuth2」ボタンを押し、認証画面を開きます。
- ユーザ名とパスワードを入力し「ログイン」ボタンを押します。



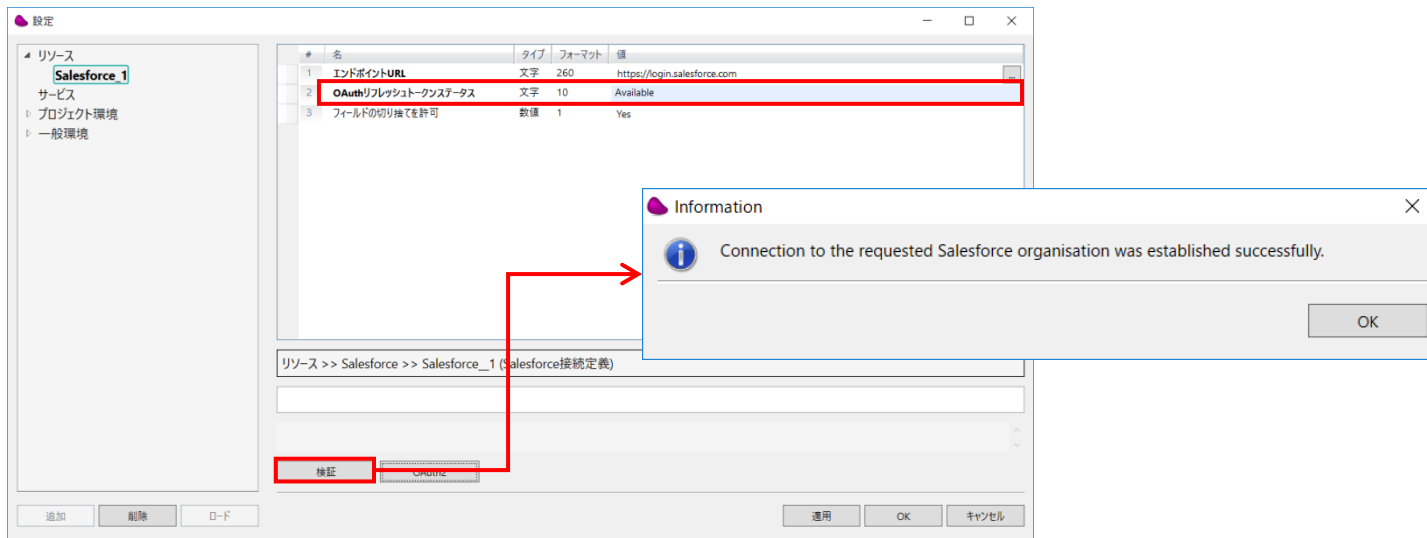
認証画面表示時に、下記のようなスクリプトエラーが出る場合、P.10～P.12を参照し、レジストリの設定を行ってください。



パスワードをお忘れですか? カスタムドメインを使用
カスタマーユーザではありません
無料トライアル

1.4 Salesforceリソースの設定

- 「OAuthリフレッシュトークンステータス」が「Available」となったことを確認します。
- 「検証」ボタンを押し、検証が通ることを確認します。



1.5

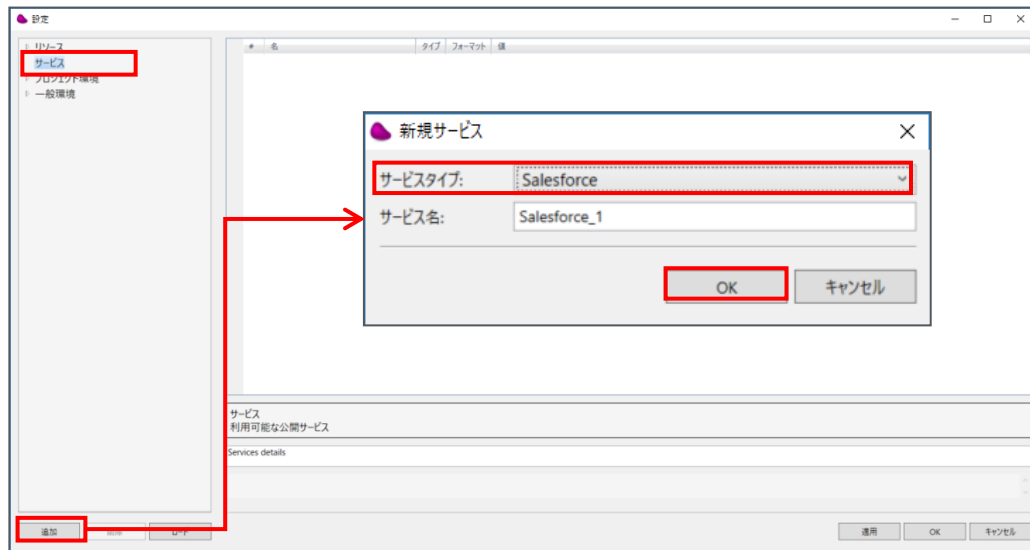
Salesforce サービスの設定



OUTPERFORM THE FUTURE™

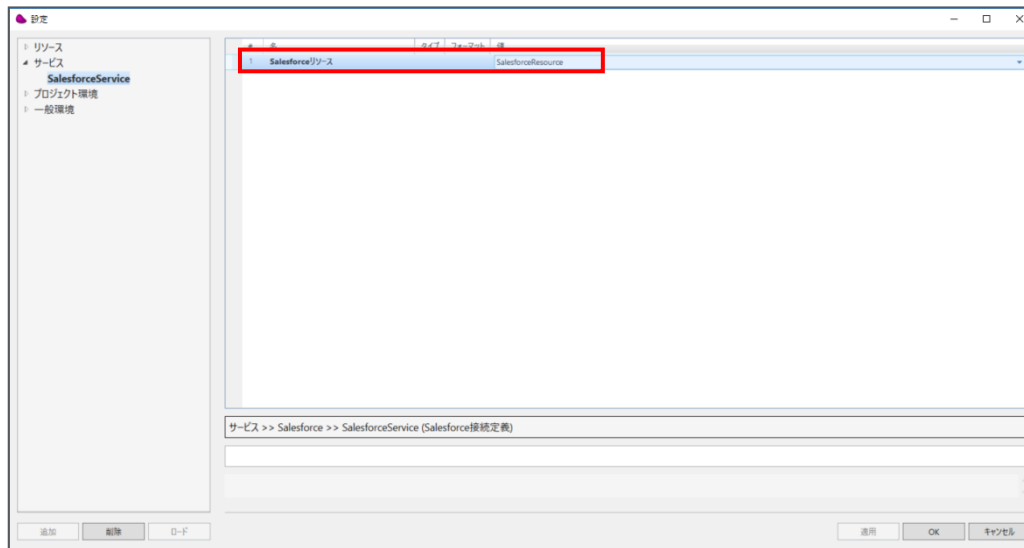
1.5 Salesforceサービスの設定

- xpiスタジオのメニュー > プロジェクト > 設定より設定画面を開きます。
- 左ペインで「サービス」を選択した状態で「追加」ボタンを押し、サービスタイプ「Salesforce」のサービスを作成します。



1.5 Salesforceサービスの設定

- 右ペインでSalesforceリソースを選択します。



第2章 トリガの使い方



OUTPERFORM THE FUTURE™

All Rights Reserved, Copyright(C) Magic Software Japan K.K. 2020

2.1 トリガ



OUTPERFORM THE FUTURE™

2.1 トリガ

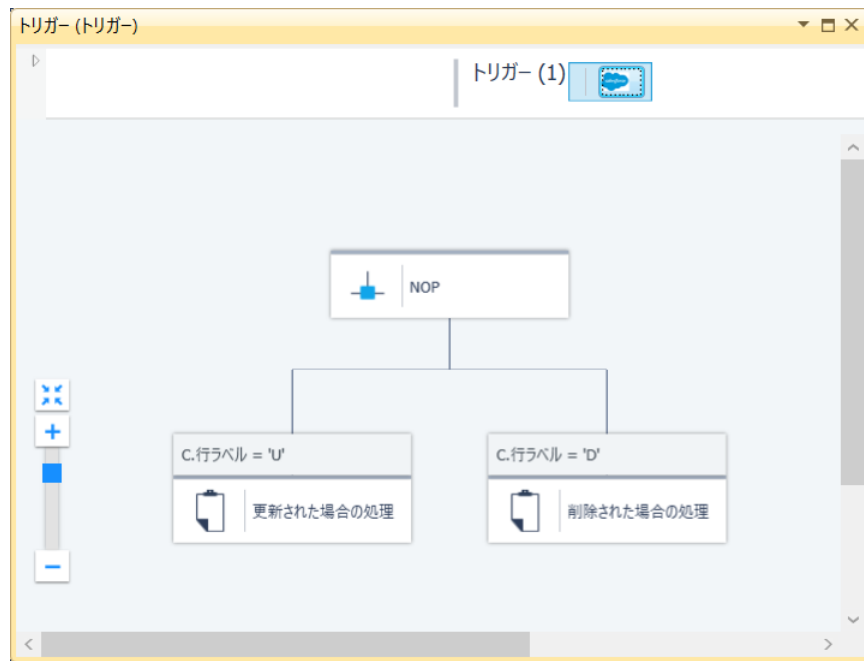
【設定画面の設定例】

項目	値
リソース名	プロパティペインでSalesforceリソースを選択。
ポーリング間隔	Salesforceオブジェクトをポーリングする間隔を指定。 最低値は1分。
行ラベル	トリガが複数行定義されている時、トリガを識別するためのラベル（任意の文字列）を指定。
オブジェクト	ボタンを押しオブジェクトリストからオブジェクトを選択。
オペレーション	Updated（更新または追加）、Deleted（削除）のどちらかを選択。
開始日	ポーリングの起点となる日時を格納するグローバル変数を指定。
結果XML保存	「変数」を選択し、結果を格納する変数を指定。 更新（追加を含む）または削除されたオブジェクトの情報がXMLとして格納されます。
行ラベル保存	トリガが複数行定義されている時、起動したトリガの行ラベルを格納する変数を指定。
前回日付保存	前回ポーリングした日時を格納する変数を指定。

2.1 トリガ

【行ラベルによる処理分岐】

- ・ トリガを複数行定義したとき、起動したトリガの行ラベルによって処理を分岐することができます。



2.1 トリガ

【開始日と前回日付】

- ・ 開始日、前回日付はAlpha型の変数を使用します。
- ・ 開始日はJST(日本標準時)ではなく、GMT(グリニッジ標準時)で指定します。
- ・ 前回日付はJST(日本標準時)ではなく、GMT(グリニッジ標準時)で格納されます。
- ・ 開始日はグローバル変数でなければなりませんが、前回日付のスコープは何でもよいです。

例) JST(日本標準時)の2019/02/01 12:00:00以降の更新/削除をポーリングする場合
G.開始日の値 → 「2019-02-01T03:00:00.000Z」



OUTPERFORM THE FUTURE™

第3章

基本APIの使い方



OUTPERFORM THE FUTURE™

All Rights Reserved, Copyright(C) Magic Software Japan K.K. 2020

3 基本APIの使い方

【基本API】

- Salesforceコンポーネントの基本API(オペレーション)を使用して、Salesforceのオブジェクトに対して、クエリ、作成、更新、アップサート、削除の操作を行うことができます。
- Salesforceに対して、リクエストXMLを送信し、レスポンスXMLを受け取ります。
- クエリ実行時に、送り元に複数のレコードがある場合、リクエストXMLは複数レコードとなりますが、レスポンスXMLにはリクエストXMLの最初の1レコードの情報を元に検索した結果のみ含まれます。
- クエリの検索条件によってはレスポンスXMLは複数レコードになる場合があります。
- 作成、更新、アップサート、削除実行時に、送り元に複数のレコードがある場合、リクエストXML、レスポンスXMLともに複数レコードとなります。



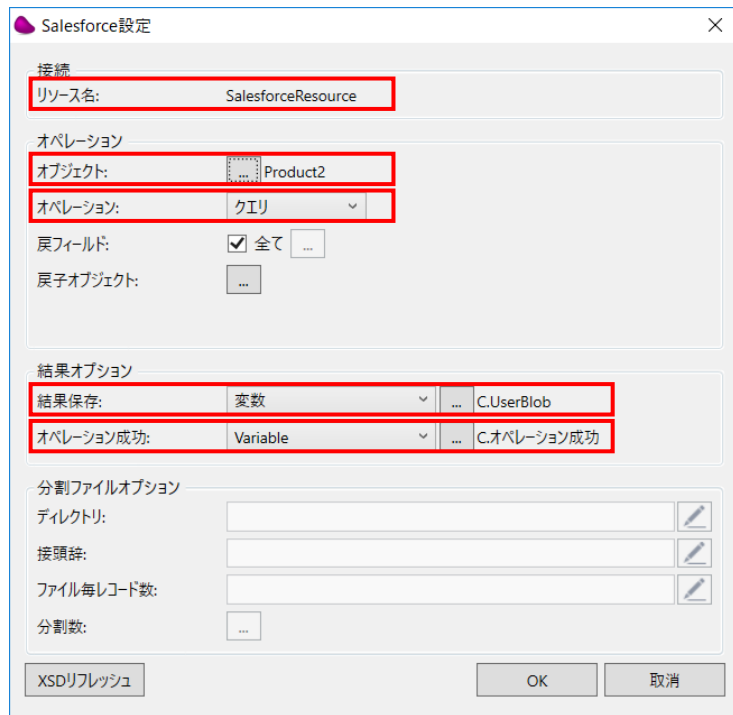
3.1 クエリ



OUTPERFORM THE FUTURE™

3.1 クエリ

【設定画面の設定例】



Salesforce設定

接続

リソース名: SalesforceResource

オペレーション

オブジェクト: Product2

オペレーション: クエリ

戻フィールド: ☒ 全て

戻子オブジェクト:

結果オプション

結果保存: 変数 C.UserBlob

オペレーション成功: Variable C.オペレーション成功

分割ファイルオプション

ディレクトリ:

接頭辞:

ファイル毎レコード数:

分割数:

XSDリフレッシュ OK 取消

項目	値
リソース名	プロパティペインでSalesforceリソースを選択。
オブジェクト	ボタンを押しオブジェクトリストからオブジェクトを選択。
オペレーション	「クエリ」を選択。
結果保存	「変数」を選択し、結果を格納する変数を指定。 APIから戻されるレスポンスXMLが格納されます。
オペレーション成功	「Variable」を選択し、成否を格納する変数を指定。 成功時は「True」、失敗時は「False」が格納されます。

3.1 クエリ

【マップ画面の設定例① - フィールド -】

ルートノードのプロパティ「変数」は自動的に「C.UserXML」に設定され、APIに送信するリクエストXMLが格納されます。

Product2を検索 (クエリ)

送り先

送り先

IFC_Salesforce XML Scheme

変数 C.UserXML

ProductCode Simple Field

計算値 '2000'

ここではフィールドのプロパティ「計算値」に直接、値を指定していますが、送り元に DataBaseやFlat Fileを指定し、送り元から値をマッピングすることも可能です。

フィールド「ProductCode」が「2000」のレコードを検索



3.1 クエリ

【マップ画面の設定例② - SOQL -】

ルートノードのプロパティ「変数」は自動的に「C.UserXML」に設定され、APIに送信するリクエストXMLが格納されます。

Property windows shown:

- IFC_Salesforce XML Scheme**
変数: C.UserXML
- WHERE Simple Field**
計算値: 'ProductCode="2000"'

「WHERE」にSOQLのWHERE句を指定することもできます。
xpiでは文字列はシングルクォーテーションで囲うため、
シングルクォーテーション自体を含める場合はエスケープします。



OUTPERFORM THE FUTURE™

3.1 クエリ

【リクエストXMLとレスポンスXML】

リクエストXML – フィールド –

```
ContextView_BLOB.TXT - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16" standalone="no" ?>
  <Product2 xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
    <row>
      <Fields>
        <ProductCode>2000</ProductCode>
      </Fields>
    </row>
  </Product2>
```

リクエストXML – SOQL –

```
ContextView_BLOB.TXT - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16" standalone="no" ?>
  <Product2 xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
    <row>
      <SOQL>
        <WHERE>ProductCode=&apos;2000&apos;</WHERE>
      </SOQL>
    </row>
  </Product2>
```

レスポンスXML

```
ContextView_BLOB.TXT - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Product2>
  <row>
    <Fields>
      <type>Product2</type>
      <Id>01t7F000006mj14QA1</Id>
      <LastReferencedDate>2019-02-06T08:17:57.000Z</LastReferencedDate>
      <Name>テスト商品2</Name>
      <LastModifiedDate>2019-02-06T08:17:57.000Z</LastModifiedDate>
      <IsDeleted>false</IsDeleted>
      <CreatedDate>2019-02-04T04:02:24.000Z</CreatedDate>
      <IsActive>false</IsActive>
      <LastModifiedById>0057F000002NKBCQA4</LastModifiedById>
      <SystemModstamp>2019-02-06T08:17:57.000Z</SystemModstamp>
      <LastViewedDate>2019-02-06T08:17:57.000Z</LastViewedDate>
      <ProductCode>2000</ProductCode>
      <CreatedById>0057F000002NKBCQA4</CreatedById>
    </Fields>
  </row>
</Product2>
```

3.2 作成



OUTPERFORM THE FUTURE™

3.2 作成

【設定画面の設定例】

Salesforce設定

接続

リソース名: SalesforceResource

オペレーション

オブジェクト: Product2

オペレーション: 作成 パッチサイズ: 200

新オブジェクトID: C.新オブジェクトID

戻りオブジェクト:

結果オプション

結果保存: 変数 C.UserBlob

オペレーション成功: Variable C.オペレーション成功

分割ファイルオプション

ディレクトリ:

接頭辞:

ファイル毎レコード数:

分割数:

XSDリフレッシュ OK 取消

項目	値
リソース名	プロパティペインでSalesforceリソースを選択。
オブジェクト	ボタンを押しオブジェクトリストからオブジェクトを選択。
オペレーション	「作成」を選択。
新オブジェクトID	ここで指定した変数に、作成されたオブジェクトのIDが格納されます。
結果保存	「変数」を選択し、結果を格納する変数を指定。 APIから戻されるレスポンスXMLが格納されます。
オペレーション成功	「Variable」を選択し、成否を格納する変数を指定。 成功時は「True」、失敗時は「False」が格納されます。

3.2 作成

【マップ画面の設定例】

ルートノードのプロパティ「変数」は自動的に「C.UserXML」に設定され、APIに送信するリクエストXMLが格納されます。

送り先

IFC_Salesforce XML Scheme

変数 C.UserXML

Name Simple Field

計算値 テスト商品 6

ProductCode Simple Field

計算値 6000

ここではフィールドのプロパティ「計算値」に直接、値を指定していますが、送り元に DataBaseやFlat Fileを指定し、送り元から値をマッピングすることも可能です。

フィールド「Name」が「テスト商品 6」、フィールド「ProductCode」が「6000」のレコードを作成



3.2 作成

【リクエストXMLとレスポンスXML】

リクエストXML

```
ContextView_BLOB.TXT - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16" standalone="no" ?>
  <Product2 xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
    <row>
      <Fields>
        <Name>テスト商品6</Name>
        <ProductCode>6000</ProductCode>
      </Fields>
    </row>
  </Product2>
```

レスポンスXML

```
ContextView_BLOB.TXT - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Product2>
  <row>
    <Return>
      <Id>01t7F000006mmEQAQ</Id>
      <Success>true</Success>
    </Return>
  </row>
</Product2>
```

3.3 更新



OUTPERFORM THE FUTURE™

3.3 更新

【設定画面の設定例】

The screenshot shows the 'Salesforce設定' (Salesforce Settings) dialog box. Several fields are highlighted with red rectangles:

- 接続 (Connection):**
 - リソース名 (Resource Name): SalesforceResource
- オペレーション (Operation):**
 - オブジェクト (Object): Product2
 - オペレーション (Operation): 更新 (Update)
 - パッチサイズ (Patch Size): 200
- 結果オプション (Result Options):**
 - 結果保存 (Save Results): 変数 (Variable) - C.UserBlob
 - オペレーション成功 (Operation Success): Variable - C.オペレーション成功

At the bottom, there are buttons for 'XSDリフレッシュ' (Refresh XSD), 'OK', and '取消' (Cancel).

項目	値
リソース名	プロパティペインでSalesforceリソースを選択。
オブジェクト	ボタンを押しオブジェクトリストからオブジェクトを選択。
オペレーション	「更新」を選択。
結果保存	「変数」を選択し、結果を格納する変数を指定。 APIから戻されるレスポンスXMLが格納されます。
オペレーション成功	「Variable」を選択し、成否を格納する変数を指定。 成功時は「True」、失敗時は「False」が格納されます。

3.3 更新

【マップ画面の設定例 - 送り元 -】

- ・ オブジェクトを更新する場合、そのIDを知る必要があります。

下記の例では、事前にクエリを発行し、取得したオブジェクトのXMLを送り元に設定しています。

送り元

送り先

プロパティ

XML_1 XML Scheme

XSDファイル Salesforce%XSD%Salesforce

XMLルート Product2

XSDサブタイプ File

送り元タイプ Variable

変数 C.UserBlob

下記参照

クエリで取得したIdを送り先のObjectID>Idにマッピング

クエリの設定画面の結果保存に指定した変数

クエリで取得したXMLのスキーマ情報（XSD）は下記フォルダにあります。

¥ソリューションフォルダ¥プロジェクトフォルダ¥Salesforce¥XSD¥Salesforceリソース名¥オブジェクト名.xsd



3.3 更新

【マップ画面の設定例 - 送り先 -】

ルートノードのプロパティ「変数」は自動的に「C.UserXML」に設定され、APIに送信するリクエストXMLが格納されます。

Idをキーに更新 (更新)

送り先

IFC_Salesforce XML Scheme

変数 C.UserXML

Name Simple Field

計算値 'テスト商品 2 0'

Description Simple Field

計算値 'テスト用商品'

値をクリアしたい場合は、
計算値に「null()」を設定します。

フィールド「Name」が「テスト商品 2 0」、
フィールド「Description」が「テスト用商品」
にレコードを更新



3.3 更新

【リクエストXMLとレスポンスXML】

リクエストXML

```
ContextView_BLOB.TXT - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16" standalone="no" ?>
  <Product2 xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
    <row>
      <ObjectID>
        <Id>01t7F000006mjI4QAI</Id>
      </ObjectID>
      <Fields>
        <Name>テスト商品2 O</Name>
        <Description>テスト用商品</Description>
      </Fields>
    </row>
  </Product2>
```

レスポンスXML

```
ContextView_BLOB.TXT - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Product2>
  <row>
    <Return>
      <Id>01t7F000006mjI4QAI</Id>
      <Success>true</Success>
    </Return>
  </row>
</Product2>
```

リクエストXML - 値クリア -

```
ContextView_BLOB.TXT - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16" standalone="no" ?>
  <Product2 xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
    <row>
      <ObjectID>
        <Id>01t7F000006mjI4QAI</Id>
      </ObjectID>
      <Fields>
        <Name>テスト商品2 O</Name>
        <Description xsi:nil="true"></Description>
      </Fields>
    </row>
  </Product2>
```

Description要素の
xsi:nil属性にtrueが設定される



OUTPERFORM THE FUTURE™

3.4 アップサート



OUTPERFORM THE FUTURE™

3.4 アップサート

【設定画面の設定例】

Salesforce設定

接続

リソース名: SalesforceResource

オペレーション

オブジェクト: Product2

アップサートフィールド名: Name

新オブジェクトID: C.UserString

結果オプション

結果保存: 変数 C.UserBlob

オペレーション成功: Variable C.オペレーション成功

分割ファイルオプション

ディレクトリ:

接頭辞:

ファイル毎レコード数:

分割数:

XSDリフレッシュ OK 取消

項目	値
リソース名	プロパティペインでSalesforceリソースを選択。
オブジェクト	ボタンを押しオブジェクトリストからオブジェクトを選択。
オペレーション	「アップサート」を選択。
アップサートフィールド名	ボタンを押すと、入力必須のフィールドを選択可能。 ここで指定したフィールドをキーにオブジェクトを検索し、すでにオブジェクトが存在すれば更新、なければ作成されます。
新オブジェクトID	ここで指定した変数に、作成、または更新されたオブジェクトのIDが格納されます。
結果保存	「変数」を選択し、結果を格納する変数を指定。 APIから戻されるレスポンスXMLが格納されます。
オペレーション成功	「Variable」を選択し、成否を格納する変数を指定。 成功時は「True」、失敗時は「False」が格納されます。

3.4 アップサート

【マップ画面の設定例】

ルートノードのプロパティ「変数」は自動的に「C.UserXML」に設定され、APIに送信するリクエストXMLが格納されます。

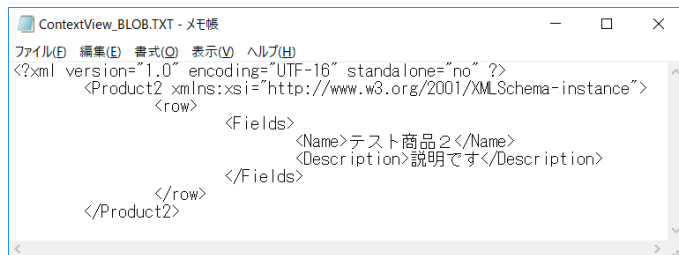
設定画面のアップサートフィールド名に指定したフィールドをキーに検索されます。ここでは「Name」が「テスト商品 2」のオブジェクトを検索します。

作成または更新されるオブジェクトのフィールド「Description」が「説明です」に設定されます。

3.4 アップサート

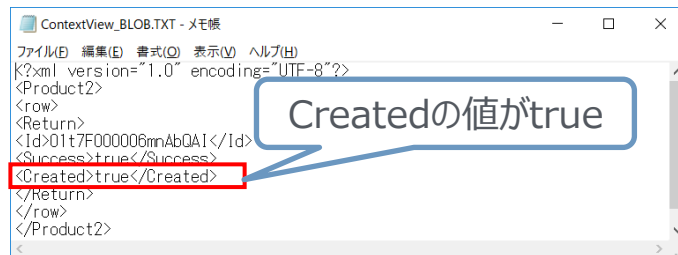
【リクエストXMLとレスポンスXML】

リクエストXML



```
ContextView_BLOB.TXT - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16" standalone="no" ?>
  <Product2 xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
    <row>
      <Fields>
        <Name>テスト商品2</Name>
        <Description>説明です</Description>
      </Fields>
    </row>
  </Product2>
```

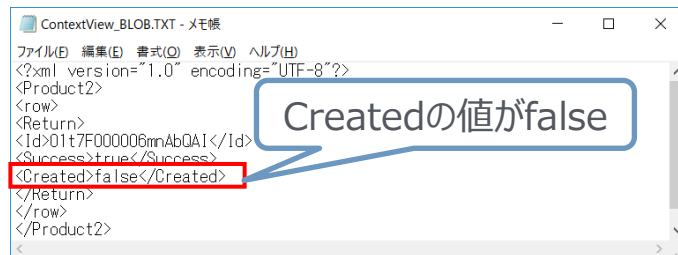
レスポンスXML – 作成時 –



```
ContextView_BLOB.TXT - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
  <Product2>
    <row>
      <Return>
        <Id>01t7F000006mnAbQAI</Id>
        <Success>true</Success>
      </Return>
    </row>
  </Product2>
```

Createdの値がtrue

レスポンスXML – 更新時 –



```
ContextView_BLOB.TXT - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
  <Product2>
    <row>
      <Return>
        <Id>01t7F000006mnAbQAI</Id>
        <Success>true</Success>
      </Return>
    </row>
  </Product2>
```

Createdの値がfalse

3.5 削除



OUTPERFORM THE FUTURE™

3.5 削除

【設定画面の設定例】

The screenshot shows a 'Salesforce設定' (Salesforce Settings) dialog box. Several fields are highlighted with red rectangles:

- 接続 (Connection):**
 - リソース名 (Resource Name): SalesforceResource
- オペレーション (Operation):**
 - オブジェクト (Object): Product2
 - オペレーション (Operation): 削除 (Delete)
- 結果オプション (Result Options):**
 - 結果保存 (Save Result): 変数 (Variable) ... C.UserBlob
 - オペレーション成功 (Operation Success): Variable ... C.オペレーション成功

At the bottom, there is a '分割ファイルオプション' (Split File Option) section with fields for 'ディレクトリ' (Directory), '接頭辞' (Prefix), 'ファイル毎レコード数' (Records per file), and '分割数' (Number of splits). Buttons for 'XSDリフレッシュ' (Refresh XSD), 'OK', and '取消' (Cancel) are at the bottom.

項目	値
リソース名	プロパティペインでSalesforceリソースを選択。
オブジェクト	ボタンを押しオブジェクトリストからオブジェクトを選択。
オペレーション	「削除」を選択。
結果保存	「変数」を選択し、結果を格納する変数を指定。 APIから戻されるレスポンスXMLが格納されます。
オペレーション成功	「Variable」を選択し、成否を格納する変数を指定。 成功時は「True」、失敗時は「False」が格納されます。

3.5 削除

【マップ画面の設定例 - 送り元 -】

- ・ オブジェクトを削除する場合、そのIDを知る必要があります。

下記の例では、事前にクエリを発行し、取得したオブジェクトのXMLを送り元に設定しています。

The screenshot displays the 'Idをキーに削除 (削除)' window. On the left, the '送り元' (Source) pane shows a tree structure with 'XML_1' selected. A red box highlights 'XML_1', and another red box highlights the 'Id' field under 'Fields'. A red arrow points from this 'Id' field to the 'Id' field in the '送り先' (Destination) pane, which is also highlighted with a red box. A third red arrow points from the 'Id' field in the '送り先' pane to the '変数' (Variable) field in the 'プロパティ' (Properties) window on the right. The '変数' field is highlighted with a red box and contains the value 'C.UserBlob'. A callout bubble points to the '変数' field with the text '下記参照' (Refer below). Another callout bubble points to the '変数' field with the text 'クエリの設定画面の結果保存に指定した変数' (Variable specified for saving results in the query settings screen).

送り元

送り先

プロパティ

XML_1 XML Scheme

XSDファイル Salesforce¥XSD¥Salesforce

XMLルート Product2

XSDサブタイプ File

送り元タイプ Variable

変数 C.UserBlob

下記参照

クエリで取得したIdを送り先のObjectID>Idにマッピング

クエリの設定画面の結果保存に指定した変数

クエリで取得したXMLのスキーマ情報 (XSD) は下記フォルダにあります。

¥ソリューションフォルダ¥プロジェクトフォルダ¥Salesforce¥XSD¥Salesforceリソース名¥オブジェクト名.xsd



3.5 削除

【マップ画面の設定例 - 送り先 -】

ルートノードのプロパティ「変数」は自動的に「C.UserXML」に設定され、APIに送信するリクエストXMLが格納されます。

送り元

送り先

プロパティ

IFC_Salesforce XML Scheme

変数 C.UserXML

送り元から送られたIdのオブジェクトが削除されます。



OUTPERFORM THE FUTURE™

3.5 削除

【リクエストXMLとレスポンスXML】

リクエストXML

```
ContextView_BLOB.TXT - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16" standalone="no" ?>
  <Product2 xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
    <row>
      <ObjectID>
        <Id>01t7F000006mmnEQAG</Id>
      </ObjectID>
    </row>
  </Product2>
```

レスポンスXML

```
ContextView_BLOB.TXT - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Product2>
  <row>
    <Return>
      <Id>01t7F000006mmnEQAG</Id>
      <Success>true</Success>
    </Return>
  </row>
</Product2>
```

第4章 一括(Bulk)APIの 使い方



OUTPERFORM THE FUTURE™

All Rights Reserved, Copyright(C) Magic Software Japan K.K. 2020

4 一括(Bulk)APIの使い方

【一括(Bulk)API】

- Salesforceコンポーネントの一括(Bulk)API(オペレーション)を使用して、Salesforceのオブジェクトに対して、クエリ、作成、更新、アップサート、削除の操作を行うことができます。
- Salesforceに対して、リクエストCSVを送信します。
- 一括(Bulk)クエリ実行時は、Bulk Retrieve Query Resultsメソッドにより、結果をCSVとして保存します。



OUTPERFORM THE FUTURE™

4.1 一括(Bulk)クエリ

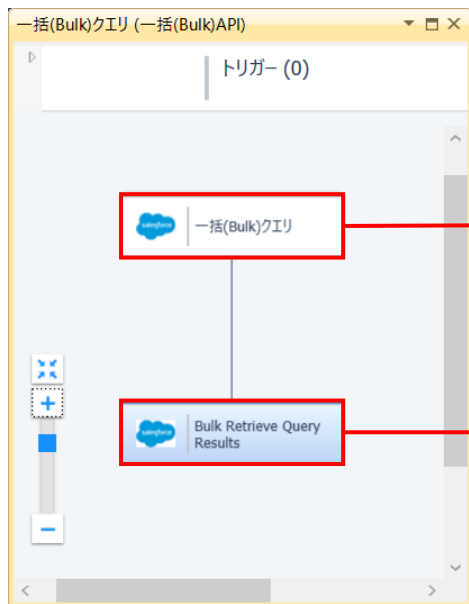


OUTPERFORM THE FUTURE™

4.1 一括(Bulk)クエリ

【一括(Bulk)クエリと結果の取り出し】

- 一括(Bulk)クエリを使用する場合、クエリを発行するSalesforceコンポーネントの下に、結果を取り出すためのSalesforceコンポーネントを配置、設定する必要があります。



クエリを発行するSalesforceコンポーネントの「インタフェース」は「XML」に設定。

結果を取り出すSalesforceコンポーネントの「インタフェース」は「メソッド」に設定。

4.1 一括(Bulk)クエリ

【設定画面の設定例】 ※クエリを発行するSalesforceコンポーネント

Salesforce設定

接続

リソース名: SalesforceResource

オペレーション

オブジェクト: Product2

オペレーション: 一括(Bulk)クエリ

バッチモード: Parallel

戻フィールド: ☐ 全て ... Id,Name,ProductCode

戻ジョブID: ... C.戻りジョブID

結果オプション

結果保存: 変数 ... C.UserBlob

オペレーション成功: Variable ... C.オペレーション成功

分割ファイルオプション

ディレクトリ:

接頭辞:

ファイル毎レコード数:

分割数:

XSDリフレッシュ

OK 取消

項目	値
リソース名	プロパティペインでSalesforceリソースを選択。
オブジェクト	ボタンを押しオブジェクトリストからオブジェクトを選択。
オペレーション	「一括(Bulk)クエリ」を選択。
戻フィールド	全てのチェックをはずすと、ボタンを押してフィールドを選択可能。ここで選択したフィールドの情報を取得できる。
戻ジョブID	ここで指定した変数にジョブIDが格納されます。
オペレーション成功	「Variable」を選択し、成否を格納する変数を指定。成功時は「True」、失敗時は「False」が格納されます。

4.1 一括(Bulk)クエリ

【マップ画面の設定例】 ※クエリを発行するSalesforceコンポーネント

例えば「ProductCode IN ("1000","2000","3000")」と指定すると、ProductCodeが「1000」、「2000」、「3000」のデータが取得できます。

「WHERE」にSOQLのWHERE句を指定できます。
xpiでは文字列はシングルクォーテーションで囲うため、
シングルクォーテーション自体を含める場合はエスケープします。

4.1 一括(Bulk)クエリ

【メソッドの設定例】 ※結果を取り出すSalesforceコンポーネント

ダイレクトアクセスメソッド: Salesforce

#	名	条件
1	Bulk Retrieves Query.....	

「Bulk Retrieve Query Results」メソッドを選択。

パラメータ名	タイプ	書式	入/出力	Value
ジョブID	Alpha	18	In	C.戻りジョブID
ジョブ完了を待つ	Numeric	1	In	No
結果ディレクトリ	Alpha	1000	In	'C:\Users\suzuki\Documents\magic\projects\Z
結果ファイル接頭辞	Alpha	30	In	'BulkQueryResult'
結果数	Numeric	2	Out	
エラーコード	Numeric	12	Out	

追加 削除 クリア

バルク検索クエリ結果
このメソッドは、1つ以上のCSVファイルの形式でSalesforceから結果を取得します。

ジョブID
ジョブIDを入力して、その状態を確認します。

項目	値
ジョブID	クエリを発行するSalesforceコンポーネントでジョブIDを受け取った変数を指定します。
結果ディレクトリ	結果CSVファイルを出力するディレクトリを指定。
結果ファイル接頭辞	結果ファイルは、「ここで指定した接頭辞」+「_連番.csv」という名前で出力されます。

```
マイドキュメント\magic\projects\Z_SalesForce\Z_SalesForce\Out...
ファイル(E) 編集(E) 変換(C) 検索(S) ツール(T) 設定(O) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)
1 Id, Name, ProductCode
2 "01t7F000006mjI9QAI", "テスト商品3", "3000"
3 "01t7F000006mjHuQAI", "テスト商品1", "1000"
4 "01t7F000006mjI4QAI", "テスト商品2", "2000"
[EOF]
```



OUTPERFORM THE FUTURE™

4.2 一括(Bulk)作成



OUTPERFORM THE FUTURE™

4.2 一括(Bulk)作成

【設定画面の設定例】

The screenshot shows the 'Salesforce設定' (Salesforce Settings) dialog box. The following fields are highlighted with red boxes:

- 接続 (Connection):**
 - リソース名 (Resource Name): SalesforceResource
- オペレーション (Operation):**
 - オブジェクト (Object): Product2
 - オペレーション (Operation): 一括(Bulk)作成 (Bulk Create)
 - パッチモード (Patch Mode): Parallel
 - オブジェクトフィールド (Object Fields): Name, ProductCode
 - 戻ジョブID (Return Job ID): C.戻りジョブID
- 結果オプション (Result Options):**
 - 結果保存 (Save Results): 変数 (Variable) - C.UserBlob
 - オペレーション成功 (Operation Success): Variable - C.オペレーション成功
- 分割ファイルオプション (Split File Options):**
 - ディレクトリ (Directory):
 - 接頭辞 (Prefix):
 - ファイル毎レコード数 (Records per file):
 - 分割数 (Number of splits):

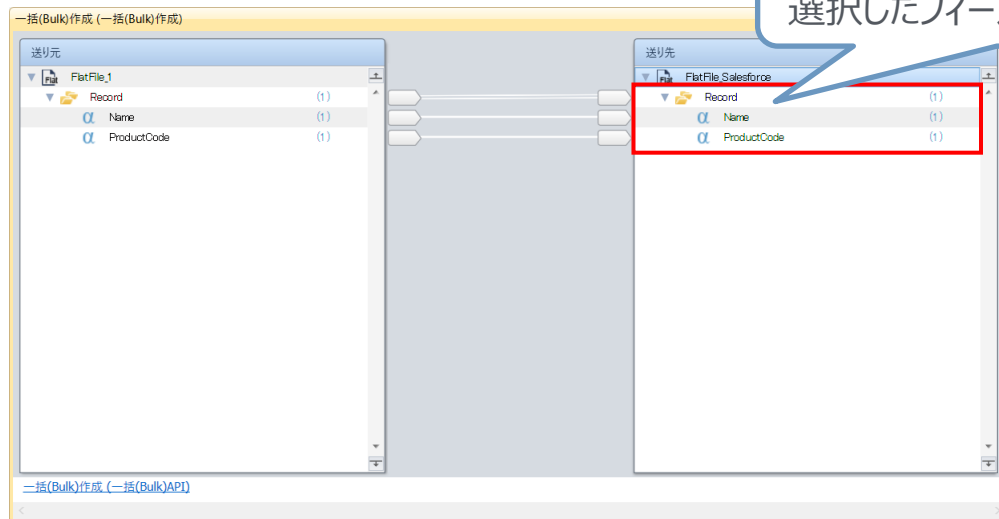
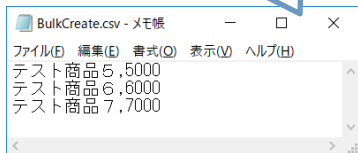
Buttons at the bottom: XSDリフレッシュ, OK, 取消.

項目	値
リソース名	プロパティペインでSalesforceリソースを選択。
オブジェクト	ボタンを押しオブジェクトリストからオブジェクトを選択。
オペレーション	「一括(Bulk)作成」を選択。
オブジェクトフィールド	ボタンを押すとフィールドを選択可能。ここで選択したフィールドがマップ画面の送り先に表示されます。
戻ジョブID	ここで指定した変数にジョブIDが格納されます。
オペレーション成功	「Variable」を選択し、成否を格納する変数を指定。成功時は「True」、失敗時は「False」が格納されます。

4.2 一括(Bulk)作成

【マップ画面の設定例】

送り元Flat File(CSV)の例



設定画面のオブジェクトフィールドで
選択したフィールドが表示されます。

ここでは送り元としてFlat File(CSV)を指定していますが、
DataBaseやXMLを指定することも可能です。



4.3 一括(Bulk)更新



OUTPERFORM THE FUTURE™

4.3 一括(Bulk)更新

【設定画面の設定例】

The screenshot shows the 'Salesforce設定' (Salesforce Settings) dialog box. The following fields are highlighted with red boxes:

- 接続 (Connection):**
 - リソース名 (Resource Name): SalesforceResource
- オペレーション (Operation):**
 - オブジェクト (Object): Product2
 - オペレーション (Operation): 一括(Bulk)更新 (Bulk Update)
 - パッチモード (Patch Mode): Parallel
 - オブジェクトフィールド (Object Field): Id, Name, ProductCode
 - 戻ジョブID (Return Job ID): C.戻りジョブID
- 結果オプション (Result Options):**
 - 結果保存 (Save Result): 変数 (Variable) - C.UserBlob
 - オペレーション成功 (Operation Success): Variable - C.オペレーション成功
- 分割ファイルオプション (Split File Options):**
 - ディレクトリ (Directory):
 - 接頭辞 (Prefix):
 - ファイル毎レコード数 (Records per file):
 - 分割数 (Number of splits):

Buttons at the bottom: XSDリフレッシュ, OK, 取消.

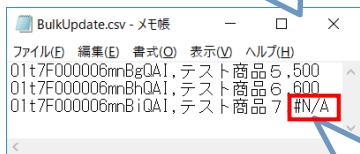
項目	値
リソース名	プロパティペインでSalesforceリソースを選択。
オブジェクト	ボタンを押しオブジェクトリストからオブジェクトを選択。
オペレーション	「一括(Bulk)更新」を選択。
オブジェクトフィールド	ボタンを押すとフィールドを選択可能。ここで選択したフィールドがマップ画面の送り先に表示されます。更新の場合は必ずIdフィールドを含めます。
戻ジョブID	ここで指定した変数にジョブIDが格納されます。
オペレーション成功	「Variable」を選択し、成否を格納する変数を指定。成功時は「True」、失敗時は「False」が格納されます。



4.3 一括(Bulk)更新

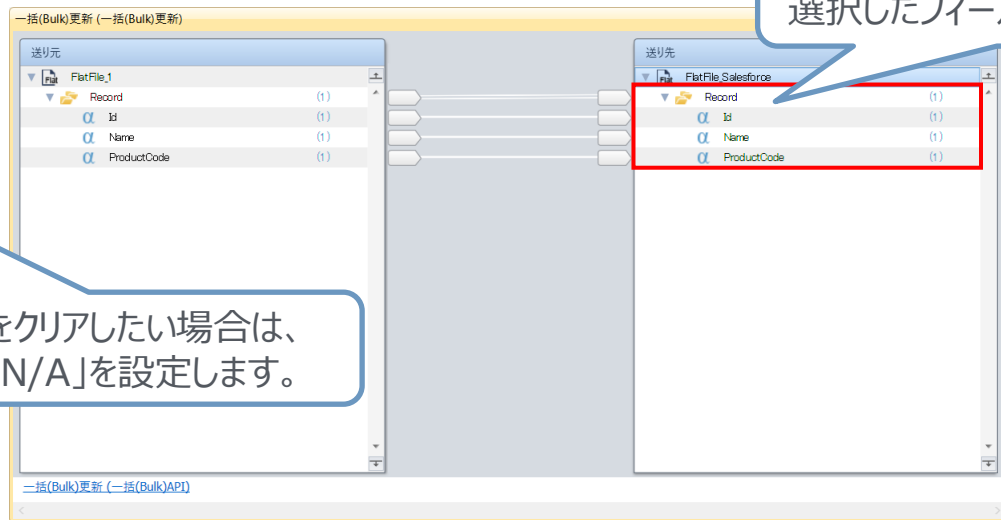
【マップ画面の設定例】

送り元Flat File(CSV)の例



値をクリアしたい場合は、
「#N/A」を設定します。

設定画面のオブジェクトフィールドで
選択したフィールドが表示されます。



ここでは送り元としてFlat File(CSV)を指定していますが、
DataBaseやXMLを指定することも可能です。



4.4 一括(Bulk) アップサート



OUTPERFORM THE FUTURE™

4.4 一括(Bulk)アップサート

【設定画面の設定例】

The screenshot shows the 'Salesforce設定' (Salesforce Settings) dialog box. Several fields are highlighted with red rectangles to indicate the configuration for a bulk upload:

- 接続 (Connection):**
 - リソース名 (Resource Name): SalesforceResource
- オペレーション (Operation):**
 - オブジェクト (Object): Product2
 - オペレーション (Operation): 一括(Bulk)アップ (Bulk Up)
 - バッチモード (Batch Mode): Parallel
- アップサートフィールド名 (Upsert Field Name):** Name
- オブジェクトフィールド (Object Field):** Name, ProductCode
- 戻ジョブID (Return Job ID):** C.戻ジョブID
- 結果オプション (Result Option):**
 - 結果保存 (Save Result): 変数 (Variable)
 - オペレーション成功 (Operation Success): Variable

At the bottom, there are buttons for 'XSDリフレッシュ' (Refresh XSD), 'OK', and '取消' (Cancel).

項目	値
リソース名	プロパティペインでSalesforceリソースを選択。
オブジェクト	ボタンを押しオブジェクトリストからオブジェクトを選択。
オペレーション	「一括(Bulk)アップサート」を選択。
アップサートフィールド名	ボタンを押すと、入力必須のフィールドを選択可能。ここで指定したフィールドをキーにオブジェクトを検索し、すでにオブジェクトが存在すれば更新、なければ作成されます。
オブジェクトフィールド	ボタンを押すとフィールドを選択可能。ここで選択したフィールドがマップ画面の送り先に表示されます。アップサートフィールド名で指定したフィールドは必ず含まれます。
戻ジョブID	ここで指定した変数にジョブIDが格納されます。
オペレーション成功	「Variable」を選択し、成否を格納する変数を指定。成功時は「True」、失敗時は「False」が格納されます。

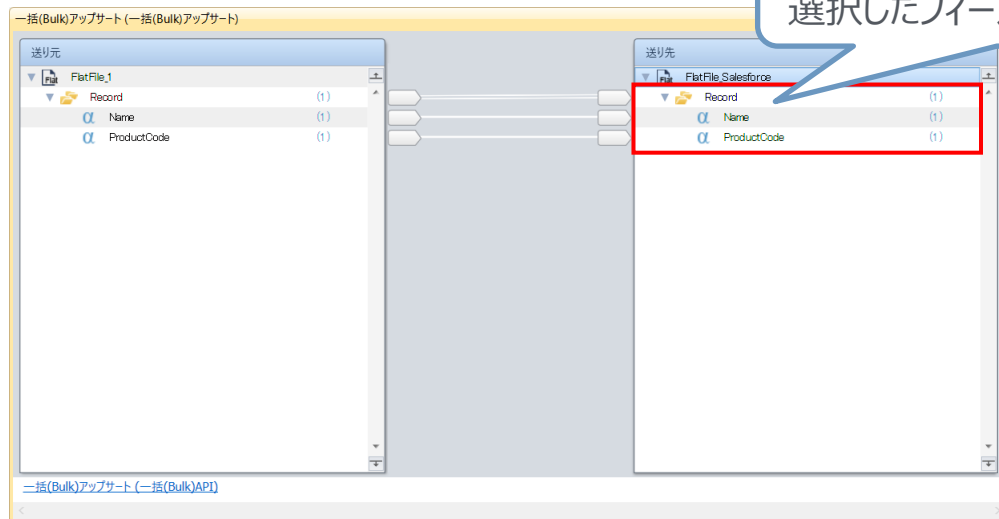
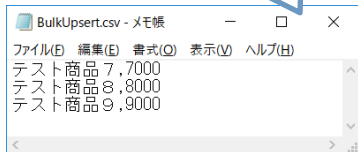


OUTPERFORM THE FUTURE™

4.4 一括(Bulk)アップサート

【マップ画面の設定例】

送り元Flat File(CSV)の例



設定画面のオブジェクトフィールドで
選択したフィールドが表示されます。

ここでは送り元としてFlat File(CSV)を指定していますが、
DataBaseやXMLを指定することも可能です。



4.5 一括(Bulk)削除



OUTPERFORM THE FUTURE™

4.5 一括(Bulk)削除

【設定画面の設定例】

The screenshot shows the 'Salesforce設定' (Salesforce Settings) dialog box. Several fields are highlighted with red rectangles:

- 接続 (Connection):**
 - リソース名 (Resource Name): SalesforceResource
- オペレーション (Operation):**
 - オブジェクト (Object): Product2
 - オペレーション (Operation): 一括(Bulk)削除 (Bulk Delete)
 - オブジェクトフィールド (Object Field): Id
 - 戻ジョブID (Return Job ID): C.戻りジョブID
- 結果オプション (Result Options):**
 - オペレーション成功 (Operation Success): Variable

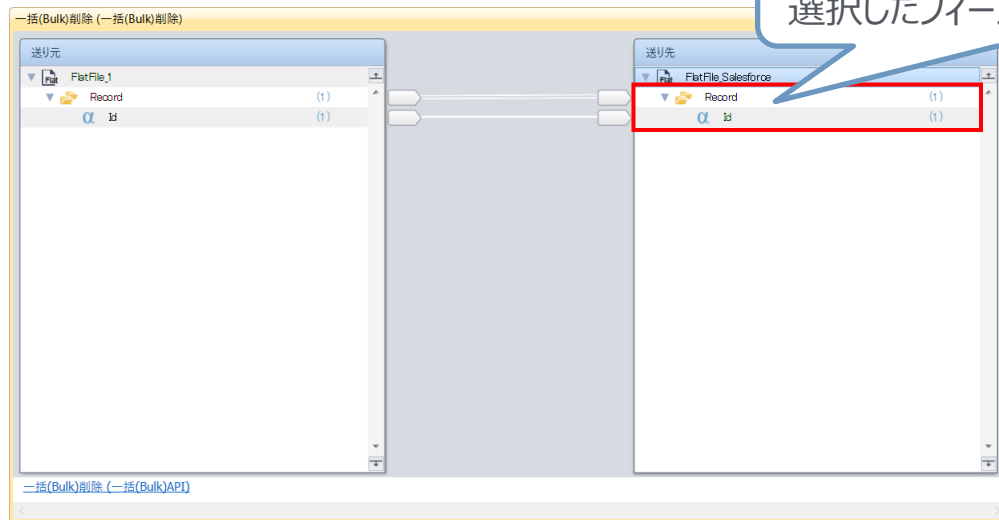
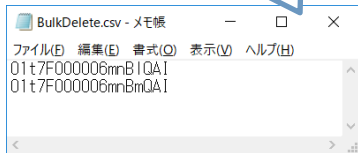
Other visible fields include 'パッチモード' (Patch Mode) set to 'Parallel', '結果保存' (Save Results) set to '変数' (Variable), and 'C.UserBlob'. The '分割ファイルオプション' (Split File Options) section includes fields for 'ディレクトリ' (Directory), '接頭辞' (Prefix), 'ファイル毎レコード数' (Records per file), and '分割数' (Number of splits). At the bottom are buttons for 'XSDリフレッシュ' (Refresh XSD), 'OK', and '取消' (Cancel).

項目	値
リソース名	プロパティペインでSalesforceリソースを選択。
オブジェクト	ボタンを押しオブジェクトリストからオブジェクトを選択。
オペレーション	「一括(Bulk)削除」を選択。
オブジェクトフィールド	ボタンを押すとフィールドを選択可能。ここで選択したフィールドをキーにオブジェクトを削除します。
戻ジョブID	ここで指定した変数にジョブIDが格納されます。
オペレーション成功	「Variable」を選択し、成否を格納する変数を指定。成功時は「True」、失敗時は「False」が格納されます。

4.5 一括(Bulk)削除

【マップ画面の設定例】

送り元Flat File(CSV)の例



ここでは送り元としてFlat File(CSV)を指定していますが、
DataBaseやXMLを指定することも可能です。



4.6 ジョブの 実行状況の確認



OUTPERFORM THE FUTURE™

4.6 ジョブの実行状況の確認

【ジョブの実行状況一覧】

- Salesforceの設定 > 環境 > ジョブ > 一括データ読み込みジョブで、ジョブの実行状況を確認できます。

設定
一括データ読み込みジョブ

処理中

ジョブID	実行者	開始時刻	終了時刻	状況	ジョブの種類	演算子	オブジェクト	処理済みレコード	レコードの失敗	進行状況
過去 7 日間で完了済み										
7507E00000AQZc8	鈴木 幸治	2019/02/07 14:13	2019/02/07 14:13	クローズ	一括 V1	削除	商品	2	0	00:09
7507E00000AQZd5	鈴木 幸治	2019/02/07 13:56	2019/02/07 13:56	クローズ	一括 V1	更新/挿入	商品	3	0	00:02
7507E00000AQZLq	鈴木 幸治	2019/02/07 13:44	2019/02/07 13:44	クローズ	一括 V1	更新	商品	3	0	00:03
7507E00000AQZHf										00:00
7507E00000AQZ45										00:01
7507E00000AQY8E										00:00
7507E00000AQY4Y										00:01
7507E00000AQD8P	鈴木 幸治	2019/02/05 10:57	2019/02/05 10:57	クローズ	一括 V1	削除	商品	2	0	00:00
7507E00000AQD8d	鈴木 幸治	2019/02/05 10:53	2019/02/05 10:53	クローズ	一括 V1	更新/挿入	商品	3	0	00:00
7507E00000AQD2x	鈴木 幸治	2019/02/05 10:40	2019/02/05 10:40	クローズ	一括 V1	更新/挿入	商品	3	1	00:00
7507E00000AQD2v	鈴木 幸治	2019/02/05 10:34	2019/02/05 10:34	クローズ	一括 V1	更新	商品	3	0	00:00
7507E00000AQDm0	鈴木 幸治	2019/02/05 10:23	2019/02/05 10:23	クローズ	一括 V1	更新	商品	3	3	00:00
7507E00000AQD24	鈴木 幸治	2019/02/05 10:15	2019/02/05 10:15	クローズ	一括 V1	挿入	商品	3	0	00:01
7507E00000AQD6B	鈴木 幸治	2019/02/05 10:02	2019/02/05 10:02	クローズ	一括 V1	カテゴリ	商品	20	0	00:00



4.6 ジョブの実行状況の確認

【ジョブの実行状況詳細】

- 個々のジョブの実行状況の詳細を確認できます。

一括データ読み込みジョブ | Salesforce

https://app5.lightning.force.com/lightning/setup/AsyncApiJobStatus/page?address=%2F7507F00000AQZcg

設定 [設定] を検索

設定 ホーム オブジェクトマネージャ

一括データ読み込みジョブ

一括データ読み込みジョブ 7507F00000AQZcg

一括データ読み込みジョブの詳細を参照します。

最後に開いたビュー: 一括データ読み込みジョブ

一括データ読み込みジョブの詳細

一括データ読み込みジョブの詳細

ジョブ ID	7507F00000AQZcg	ジョブの種類	一括 V1	状況	クロ ニ ズ
実行者	鈴木				
開始時刻	2019/02/07 14:13				
終了時刻	2019/02/07 14:13				
完了までの時間 (hh:mm:ss)	00:00:00				
オブジェクト	商品				
外置 ID 項目					

一括データ読み込みジョブの詳細

要求を表示	結果を表示	バッチ ID	終了時刻	処理時間 (ミリ秒)	処理時間 (ミリ秒)	処理時間 (ミリ秒)	処理済みレコード	レコードの失敗	再試行回数	状態メッセージ	状況
要求を表示	結果を表示	7517F00000ED6H	2019/02/07 14:13	890	785	0	2	0	0		完了



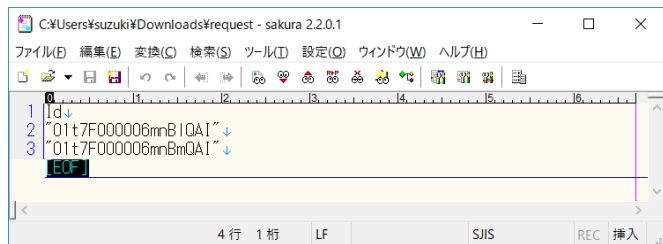
OUTPERFORM THE FUTURE™

4.6 ジョブの実行状況の確認

【要求と結果】

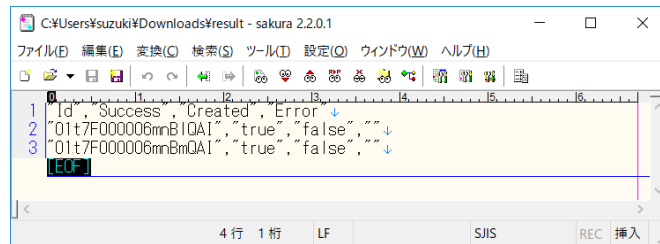
- 「要求を表示」リンクをクリックすると「request」ファイルが、「結果を表示」リンクをクリックすると「result」ファイルがそれぞれダウンロードされます。

要求を表示(request)



```
1 Id
2 "01t7F000006mnBIQA1"
3 "01t7F000006mnBmQA1"
```

結果を表示(result)



```
1 Id, Success, Created, Error
2 "01t7F000006mnBIQA1", true, false
3 "01t7F000006mnBmQA1", true, false
```

第5章 応用



OUTPERFORM THE FUTURE™

All Rights Reserved, Copyright(C) Magic Software Japan K.K. 2020

5.1

マスタ参照項目 の取得



OUTPERFORM THE FUTURE™

5.1 マスタ参照項目の取得

【クロスオブジェクト数式項目】

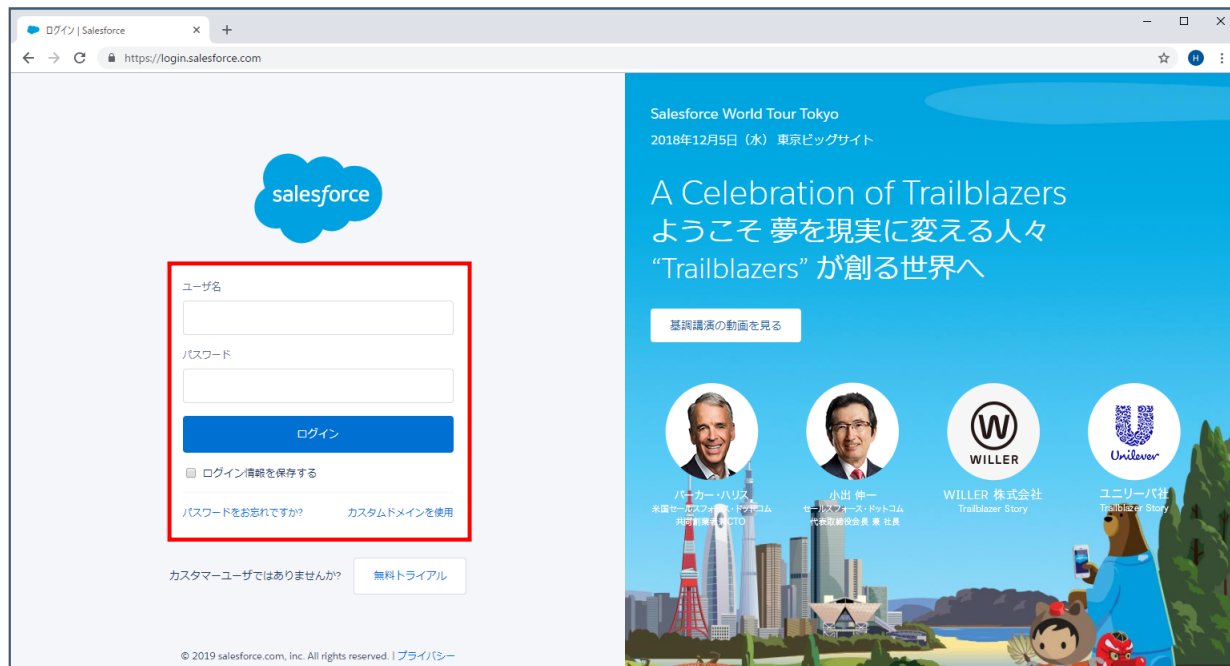
- ・ xpiでSalesforceのオブジェクトの情報を取得すると、マスタ参照項目については、そのIdしか取得できません。例えば、「商談」オブジェクトには「取引先名」という項目があり、Salesforce上では取引先名が表示されていますが、xpiで取得できるのはAccountIdのみです。
- ・ Salesforceのオブジェクトをカスタマイズし、クロスオブジェクト数式項目を追加することによって、Id(AccountId)だけでなく、その参照先の名前(取引先名)を取得できます。



OUTPERFORM THE FUTURE™

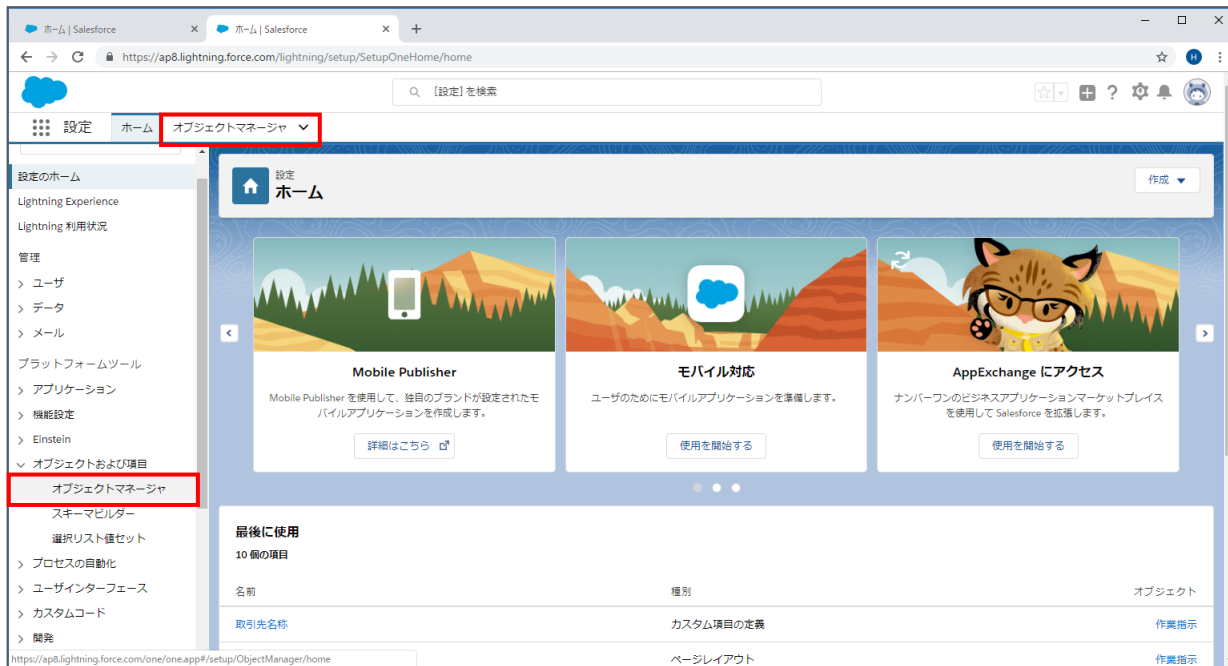
5.1 マスタ参照項目の取得

- ユーザ名とパスワードを入力し、「ログイン」ボタンを押します。



5.1 マスタ参照項目の取得

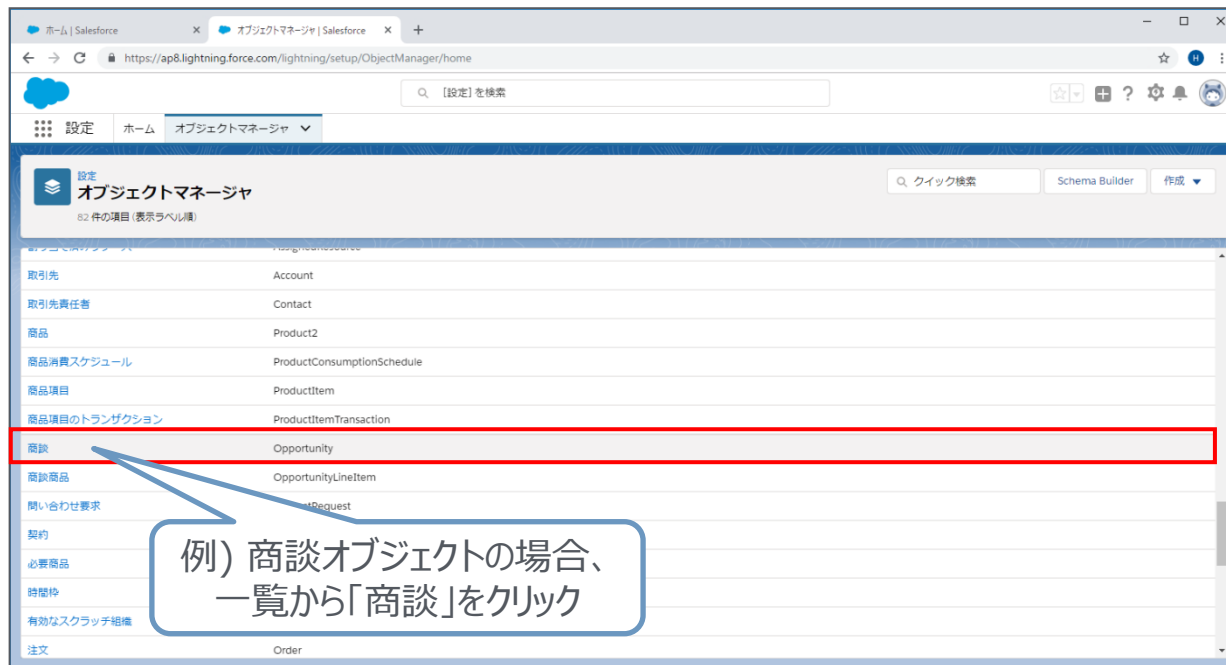
- 設定 > オブジェクトおよび項目 > オブジェクトマネージャ を選択します。
(設定画面の「オブジェクトマネージャ」タブを選択しても表示されます。)



OUTPERFORM THE FUTURE™

5.1 マスタ参照項目の取得

- オブジェクトマネージャに表示される一覧から、カスタム項目を追加するオブジェクトを選択します。



5.1 マスタ参照項目の取得

- 「項目とリレーション」を選択し、「新規」ボタンを押します。

The screenshot shows the Salesforce Object Manager interface. The left sidebar has a menu with '項目とリレーション' (Item and Relationship) highlighted with a red box. The main content area is titled '項目とリレーション' (Item and Relationship) and shows a table of 26 items. The table has columns for '項目の表示ラベル' (Item Display Label), '項目名' (Item Name), 'データ型' (Data Type), '制御項目' (Control Item), and 'インデックス付き' (Indexed). The table lists various fields like 'Current Generator(s)', 'Delivery/Installation Status', 'Main Competitor(s)', 'Order Number', 'Tracking Number', 'スコア' (Score), 'フェーズ' (Phase), 'リードソース' (Lead Source), '主キャンペーンソース' (Main Campaign Source), and '作成者' (Creator). The '新規' (New) button is highlighted with a red box in the top right corner of the main content area.

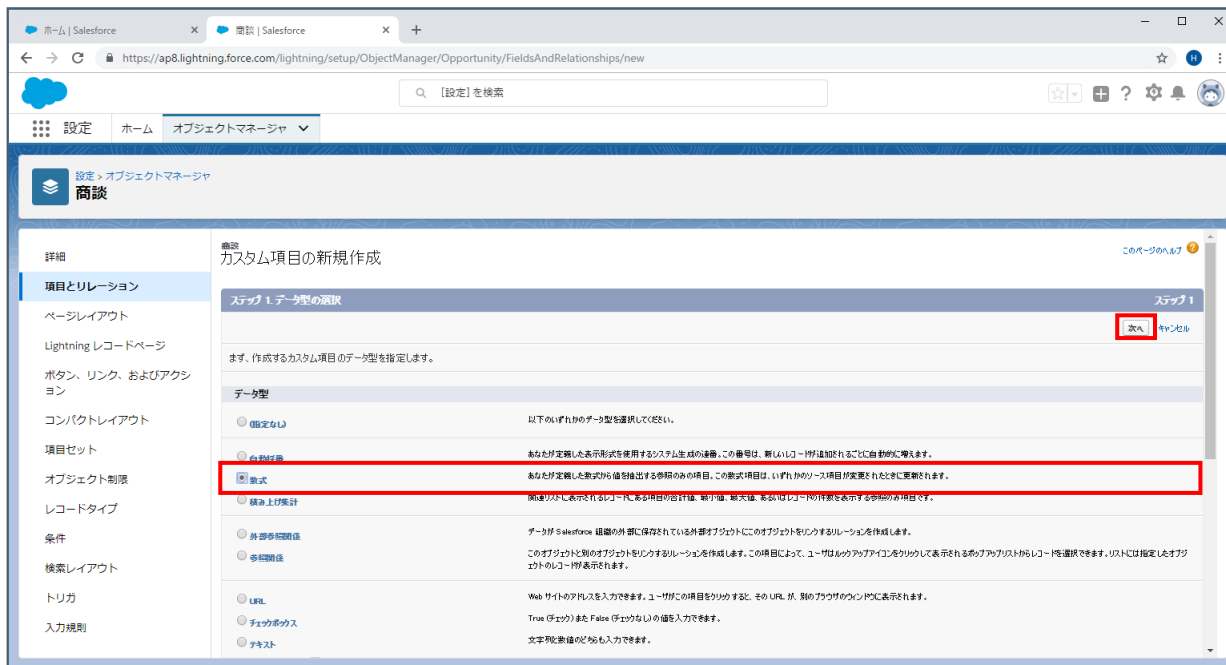
項目の表示ラベル	項目名	データ型	制御項目	インデックス付き
Current Generator(s)	CurrentGenerators__c	テキスト(100)		
Delivery/Installation Status	DeliveryInstallationStatus__c	選択リスト		
Main Competitor(s)	MainCompetitors__c	テキスト(100)		
Order Number	OrderNumber__c	テキスト(8)		
Tracking Number	TrackingNumber__c	テキスト(12)		
スコア	IqScore	数値(9, 0)		
フェーズ	StageName	選択リスト		
リードソース	LeadSource	選択リスト		
主キャンペーンソース	CampaignId	参照関係(キャンペーン)		✓
作成者	CreatedById	参照関係(ユーザ)		



OUTPERFORM THE FUTURE™

5.1 マスタ参照項目の取得

- ステップ1 データ型の選択では、データ型として「数式」を選択し、「次へ」ボタンを押します。



5.1 マスタ参照項目の取得

- ステップ2 出力型の選択では、「項目の表示ラベル」、および「項目名」に任意の値を入力します。数式の戻り値のデータ型は、参照先の項目と同じ型を選択し、「次へ」ボタンを押します。

例) 項目の表示ラベル：取引先名

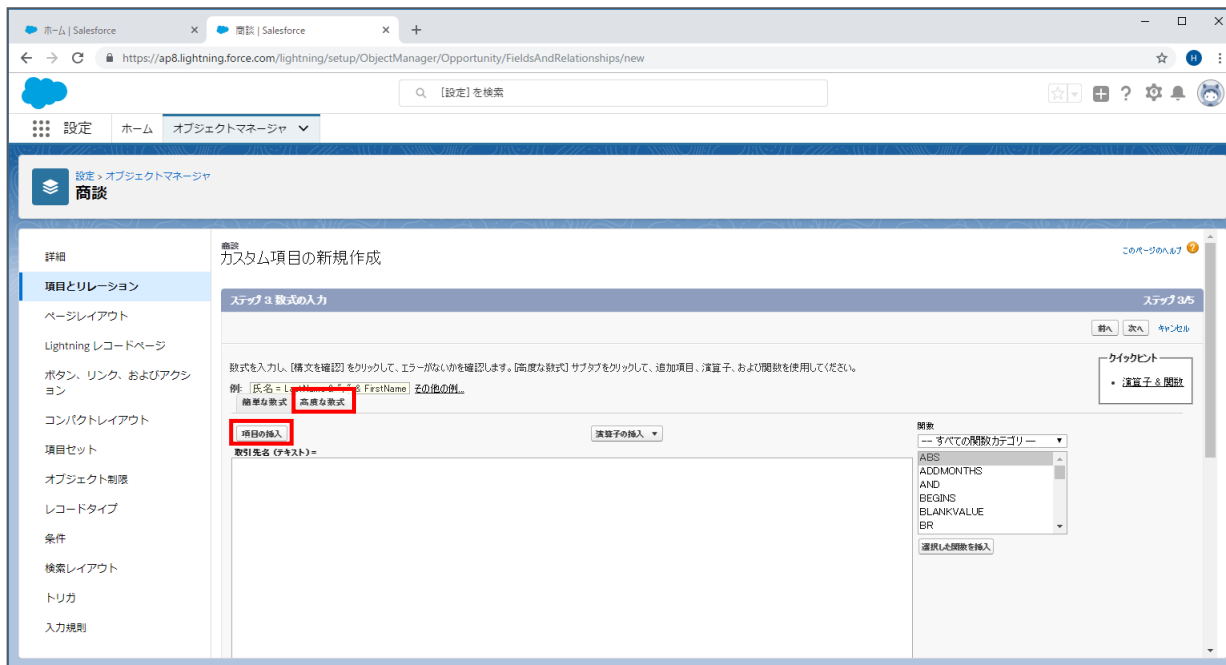
例) 項目名：AccountName

例) 参照先「取引先名」はテキスト型なのでテキストを選択



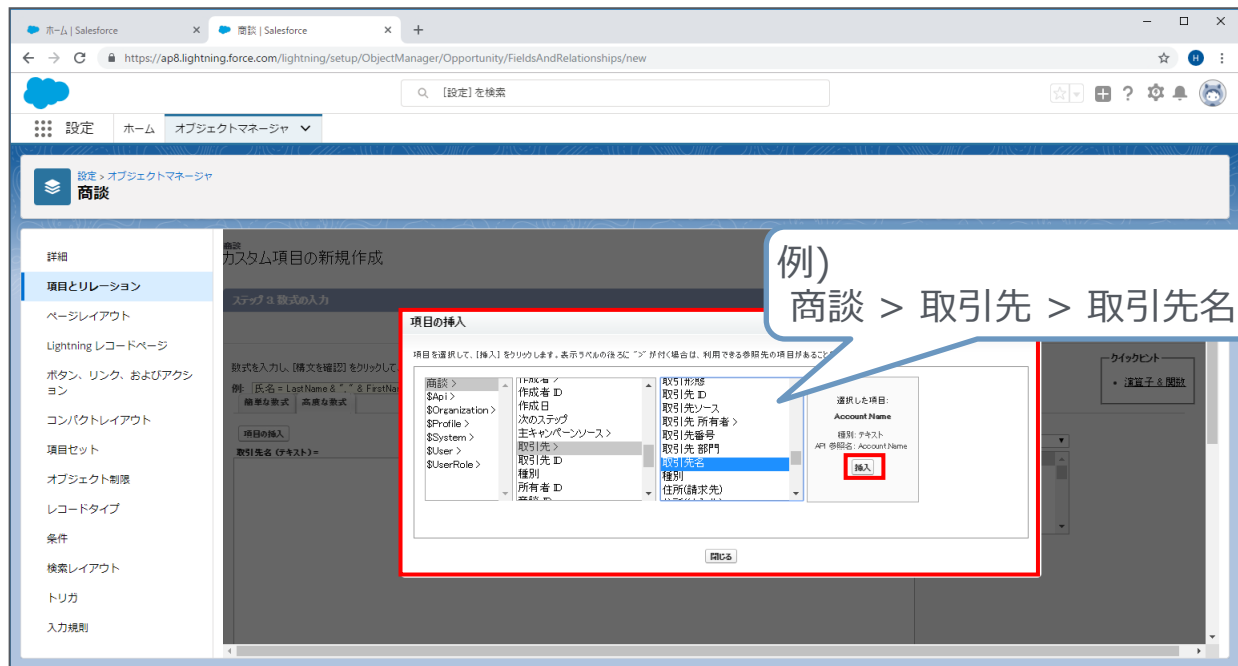
5.1 マスタ参照項目の取得

- ステップ3 数式の入力では、「高度な数式」タブを選択し、「項目の挿入」ボタンを押します。



5.1 マスタ参照項目の取得

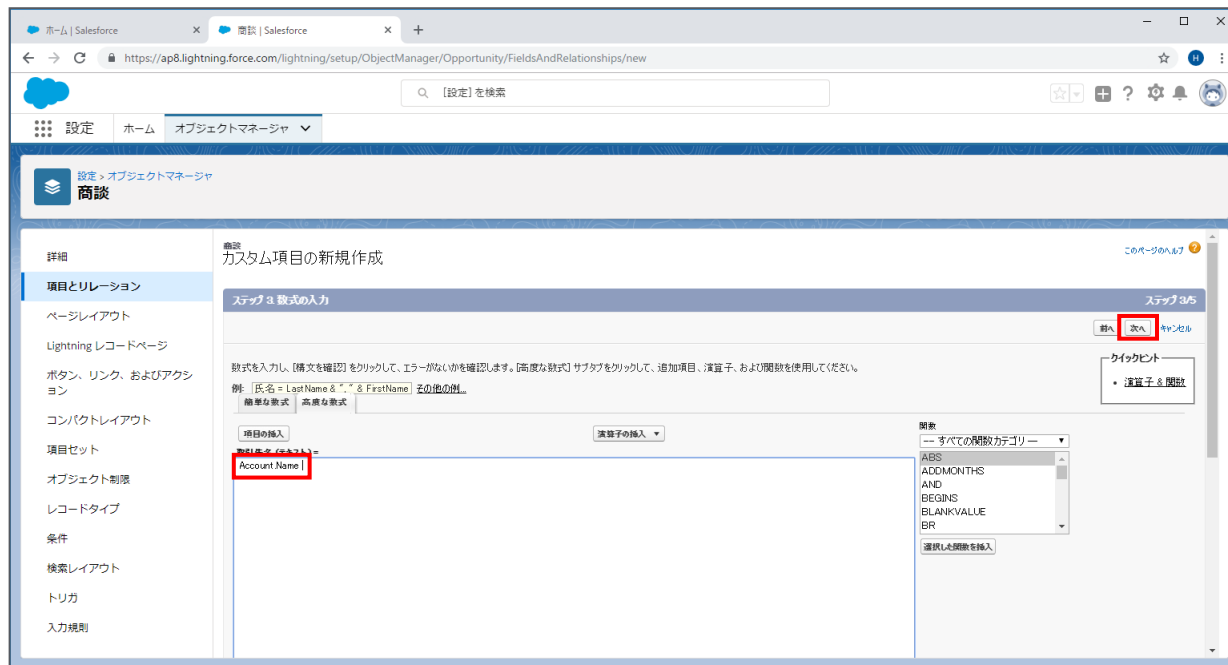
- 項目の挿入画面で参照先の項目を選択し、「挿入」ボタンを押します。



OUTPERFORM THE FUTURE™

5.1 マスタ参照項目の取得

- 数式にAPI参照名が挿入されたことを確認し、「次へ」ボタンを押します。



5.1 マスタ参照項目の取得

- ステップ4 項目レベルセキュリティの設定では、任意でアクセス権を編集します。
特に必要なければ、デフォルトのまま「次へ」ボタンを押します。

このページのヘルプ

設定 > オブジェクトマネージャ
商談

詳細
項目とリレーション
ページレイアウト
Lightning レコードページ
ボタン、リンク、およびアクション
コンパクトレイアウト
項目セット
オブジェクト制御
レコードタイプ
条件
検索レイアウト
トリガ
入力規則

カスタム項目の新規作成

ステップ 4: 項目レベルセキュリティの設定

項目の表示方法 取引先名
データ型 数式
帰属名 AccountName
説明

項目レベルセキュリティを通じて、この項目に露出アクセス権を与えるプロファイルを選択します。この項目は、項目レベルのセキュリティに追加しないと、すべてのプロファイルで表示されなくなります。

プロファイル別 項目レベルセキュリティ	参照可能	参照済み
Analytics Cloud Integration User	☒	✓
Analytics Cloud Security User	☒	✓
Authenticated Website	☐	✓
Authenticated Website	☐	✓
Cross Org Data Proxy User	☒	✓
Custom: Marketing Profile	☒	✓
Custom: Sales Profile	☒	✓
Custom: Support Profile	☒	✓

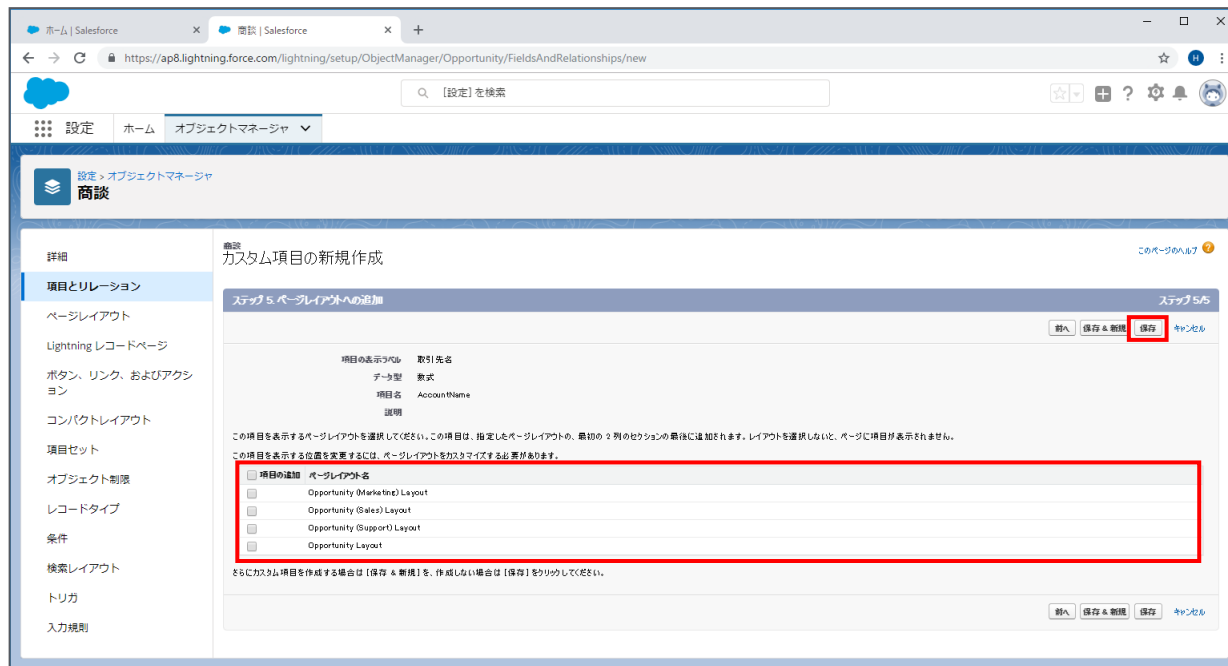
次へ 次へ キャンセル



OUTPERFORM THE FUTURE™

5.1 マスタ参照項目の取得

- ステップ5 ページレイアウトの追加では、カスタム項目を表示させる場合にチェックを入れます。
(マスタ参照項目を取得するだけであれば、表示の必要はないため、チェックを外します。)



5.1 マスタ参照項目の取得

- 「保存」ボタンを押した後、作成した項目が追加されたことを確認します。

The screenshot shows the Salesforce Object Manager interface for the 'Opportunity' object. The 'Fields and Relationships' tab is selected, displaying a list of fields. The 'Account Name' field is highlighted with a red box. A blue callout points to this field with the following text:

ステップ 2 で入力した表示ラベル、
項目名を確認します。

例) 表示ラベル：取引先名
項目名：AccountName__c



OUTPERFORM THE FUTURE™